

1 総則

1-3-2 災害時における個人情報の取扱い

2-1 被災者支援を目的とした個人情報の利用及び提供に係る事務
の取扱いについて

法 学 第 1433 号
平成 24 年 3 月 29 日

本 庁 各 室 課 等 の 長
広 域 振 興 局 の 部 等 の 長
及 び 部 等 に 置 く 所 の 長
広 域 振 興 局 以 外 の 出 先 機 関 の 長

法務学事課総括課長

**被災者支援を目的とした個人情報の利用及び提供に係る事務の取扱いに
ついて（通知）**

各種災害により被災した者（以下「被災者」という。）に対する生活再建に向けた支援を行うことを目的とした個人情報の利用及び提供については、岩手県個人情報保護審議会答申（平成 24 年 3 月 19 日付け答申第 69 号。以下「答申」という。）において、個人情報保護条例（平成 13 年条例第 7 号。以下「条例」という。）第 5 条第 1 項の規定による目的外の利用又は提供の禁止の原則の適用を除外することについて適当と認められたところです。

今般、当該利用及び提供に係る事務の取扱いを下記のとおり定めたので、貴職が保有する個人情報の利用又は提供が必要となった場合には、その適正な運用に努められますようお願いいたします。

記

1 実施機関内部における利用及び他の実施機関に対する提供

個人情報を県の事務又は事業（被災者支援を目的とするものに限る。）の用に供する場合、被災者の負担軽減を図るとともに、被災者の生活再建に資することができるよう、被災者個人の権利利益を損なわない限りにおいて、必要に応じその利用及び提供を図ること。

なお、当該利用及び提供に当たっては、条例の定めるところにより、個人情報の適正な取扱いを確保すること。

2 国、他の地方公共団体及び岩手県内に所在する社会福祉協議会に対する提供

上記 1 に準じ、必要に応じ個人情報の提供を図ること。

なお、提供に当たっては、条例第 5 条第 2 項の規定の趣旨を踏まえ、提供先に対し、提供に係る個人情報について使用目的の制限その他の必要な制限を付するとともに、その適切な取扱いのために必要な措置を講ずるよう求めること。

3 法人その他の団体（1 及び 2 に掲げる者を除く。以下「団体」という。）に対する提供

答申別紙 2 「被災者支援に係る個人情報の提供の対象となる団体の基準」の全てを満た

す場合に限り、個人情報を提供できるものであること。

なお、当該基準の運用の詳細等を別添運用方針のとおり定めたので、団体から個人情報の提供を受けたい旨申出があった場合、当該運用方針に基づき審査事務その他の手続を行うこと。

(別紙2)

被災者支援に係る個人情報の提供の対象となる団体の基準

法人その他の団体(国、地方公共団体及び岩手県内に所在する社会福祉協議会を除く。以下「団体」という。)が各種災害により被災した者(以下「被災者」という。)に対する支援として実施する事業(以下「事業」という。)の用に供するため、県の実施機関が保有する個人情報を提供することができるのは、次に掲げる条件をすべて満たす場合に限るものとする。ただし、この基準にかかわらず、個人情報を提供することが適当でない認められる理由があるときは、個人情報を提供しないものとする。

(事業の公益性)

第1 当該事業の内容が、被災者の生命、身体、財産その他の権利利益の回復、保護、保全又は増進に資するものであり、被災者に対する生活再建に向けた支援としてふさわしいものであると認められること。

(目的の明確性・整合性)

第2 当該事業について、個人情報を取り扱う目的(以下「取扱目的」という。)が明らかであり、かつ、当該取扱目的と当該事業全体の目的とが整合していると認められること。

(提供内容の合理性等)

第3 当該事業のため必要とする個人情報の対象者の範囲及び個人情報の項目が、取扱目的に照らして合理的であり、必要かつ最小限のものであると認められること。

(提供の必須性)

第4 県から個人情報の提供を受けなければ、当該事業の目的が達成し難いと認められること。

(実施可能性)

第5 当該事業が、当該団体の人的体制、当該事業の実施に関する計画の内容、当該事業の実施の具体的な方法等を総合的に勘案した結果、円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであること。

(責務遵守性)

第6 当該団体が、個人情報を取り扱うものとして自らの責任で個人情報の保護に関し必要な措置を講ずることができるものであると認められること。

2 当該団体が、県から提供を受けた個人情報を当該取扱目的以外に使用しないことを誓約するものであるほか、県の実施機関が付する条件を遵守するとともに、県の実施機関が求める措置を確実に講ずることができると認められること。

(権利利益侵害性)

第7 個人情報の提供によって、当該個人情報の対象者である被災者本人の権利利益を不当に害するおそれがないと認められること。

被災者支援に係る個人情報の提供の対象となる団体の基準の運用方針

(平成 24 年 3 月 29 日制定)

(前文 [基準の趣旨])

法人その他の団体（国、地方公共団体及び社会福祉協議会を除く。以下「団体」という。）が各種災害により被災した者（以下「被災者」という。）に対する支援として実施する事業（以下「事業」という。）の用に供するため、県の実施機関が保有する個人情報を提供することができるのは、次に掲げる条件をすべて満たす場合に限るものとする。ただし、この基準にかかわらず、個人情報を提供することが適当でないと認められる理由があるときは、個人情報を提供しないものとする。

【趣旨】

この基準は、各種災害時において、被災者に対する生活再建に向けた支援を目的とした事業を実施しようとする団体が、知事が保有する当該被災者の個人情報の提供を受けようとする場合に、当該団体及び当該団体が実施しようとする事業の備えるべき条件として、個人情報保護条例（平成 13 年条例第 7 号。以下「条例」という。）第 5 条第 1 項第 7 号に基づく岩手県個人情報保護審議会答申（平成 24 年 3 月 19 日付け答申第 69 号。以下「答申」という。）において定められたものである。

【解釈・運用】

- (1) 答申に基づく提供の対象となる被災者の個人情報は、本庁各室課等及び各出先機関（以下「各室課等」という。）において保有する各種の個人情報であり、災害対応に係る事務事業において取り扱うもののみならず、通常（平常時）の事務事業において取り扱うもの（原則として、支援対象となる被災者の個人情報を容易に抽出することができる場合に限る。）も含むものである。
- (2) 「各種災害」の範囲については、東日本大震災津波のような自然現象により生ずる災害のみに限られるものではなく、自然現象以外の原因により生ずる災害も含まれるものである。
- (3) 「被災者」の範囲については、東日本大震災津波においても支援の趣旨や内容に応じて広義・狭義が様々に使い分けられており、一律に定義し難いことから、個別の災害の様態、被害の実情、必要とされる支援の内容等に照らし、個別に判断するものとする。

なお、各室課等において当該範囲の解釈について疑義が生じた場合、団体から申出を受ける前であっても、法務学事課に協議するものとする。

- (4) 団体から個人情報の提供依頼があった場合、この基準の第 1 から第 7 までの全てを満たす場合に限り、提供することができるものとする。
- (5) 当該条件にかかわらず、団体自身の性質上、県の保有する個人情報の提供の相手方として不適当であると考えられる場合（下記判断基準(1)及び(2)を満たさない場合）には、条件への適合の有無について判断するまでもなく、個人情報を提供しないものである。

また、当該条件をすべて満たす場合であっても、何らかの理由により個人情報を提供することができない場合や、個人情報を提供すべきでない事情がある場合（下記判断基準(3)に掲げる事情を認めた場合）は、個人情報を提供しないものである。

- (6) 知事は、個人情報の提供を受けようとする団体に対し、次に掲げる書類を提出させるものとする。ただし、当該団体が災害時における連携・協力について県との間で協定その他の取決めを締結しており、当該取決めに基づく事業を実施するために個人情報の提供を受けようとする場合においては、ウに掲げる書類を省略することができるものとする。

- ア 被災者情報提供申出書（当該団体が個人情報の提供を受けたい旨、事業計画の概要その他必要な事項を記載した書面をいう。）（様式第1号）
 - イ 誓約書（当該団体が下記判断基準（1）を満たす旨及び県から提供を受けた個人情報の目的外使用を行わない旨を誓約する書面をいう。）（様式第2号）
 - ウ 実績調書（当該団体が下記判断基準（2）に掲げる実績を有するものであることを具体的に明らかにする調書をいう。）（様式第3号）
 - エ 個人情報取扱体制調書（当該団体内部の個人情報の取扱いに関する体制等を具体的に明らかにする調書をいう。）（様式第4号）
- (7) 各室課等は、団体から(6)に掲げる書類の提出があった場合、この基準に照らして審査を行い、法務学事課への協議を経て、個人情報を提供し、又は提供しない旨の決定をし、当該団体に対し、その旨を被災者情報提供決定通知書（様式第5号）又は被災者情報非提供決定通知書（様式第6号）により通知するものとする。
- (8) 各室課等は、(7)の通知を行った場合、当該通知書の写しを法務学事課に送付するものとする。

《判断基準》

答申に基づく個人情報の提供先（この基準による審査の対象）となるべき団体は、下記（1）及び（2）を満たすものでなければならない。

なお、この判断基準による審査に際しては、必要に応じ、他の実施機関に照会をすることができるものとする。（当該照会回答における個人情報の収集及び提供については、条例第4条第3項第7号及び第5条第1項第5号に基づくものとして取り扱うものとする。）

（1） 団体自身の性質

団体が次に掲げる条件の全てを満たす場合、当該団体については、その性質上、県の保有する個人情報の提供の相手方として適当であると考えられる。

ア 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを目的としていないこと。

イ 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを目的としていないこと。

ウ 特定の公職（公職選挙法（昭和25年法律第100号）第3条に規定する公職をいう。

以下同じ。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに反対することを目的としていないこと。

エ 各種法令に違反していないこと。

オ 団体の構成員に、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「暴力団対策法」という。）第2条第6号に規定する暴力団員又は暴力団（同法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）若しくは暴力団員と密接な関係を有している者が含まれていないこと。

カ 暴力団又は暴力団員が、運営に実質的に関与していないこと。

キ 団体の役員及びこれに準ずる者（以下「役員等」という。）が、自己、自団体若しくは第三者の不正の利益を図り、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員の利用等をしていないこと。

ク 役員等が、暴力団又は暴力団員に対する資金等の供給、便宜の供与等により、直接的又は積極的に暴力団の維持若しくは運営に協力し、又は関与していないこと。

ケ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していないこと。

コ 団体が現に行っている事業又は活動が、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条に該当するものでないこと。

サ 団体が現に行っている事業又は活動が、インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律（平成15年法律第83号）に定めるインターネット異性紹介事業に該当するものでないこと。

シ 行政機関からの行政指導による改善がなされていない者でないこと。

ス 県営建設工事に係る指名停止等措置基準（平成7年2月9日付け建振第281号制定）に基づく指名停止を受けていないこと。

- セ 一般委託契約に係る入札参加制限等措置基準（平成 23 年 10 月 5 日付け出第 116 号制定）に基づく入札参加制限を受けていないこと。
- ソ 違法又は不適当な行為により営業停止その他の不利益処分を受けていないこと。
- タ 民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）又は会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）による再生又は更生手続中でないこと。
- チ 上記に掲げる事項の全てに該当することについて、あらかじめ誓約していること。
- ツ その他個人情報の提供の相手方として適当でないと認められる理由がないこと。

(2) 団体の活動実績

団体が次に掲げる実績のいずれかを有する場合、当該団体については、その実績上、県の保有する個人情報の提供の相手方として適当であると考えられる。

- ・ 被災者に対する生活再建に向けた支援の実績があること。（県内での活動に限定しない。他都道府県、他国における実績も考慮。）
- ・ 県と連携・協力して事業を行った実績（県の事務事業全般にわたるものであり、被災者支援事業に限らない。）があること。

(3) その他の事情

各室課等の都合により個人情報を提供することができない場合や、諸般の事情を勘案して個人情報を提供すべきでない事情があるときは、個人情報を提供しないものとする。

具体的には、次のような場合が考えられる。

- ア 事務処理上の困難があること。（例：提供を希望する個人情報が大量なため対応できないこと、業務多忙につき対応できないこと。）
- イ 個人情報の提供以外の方法により対応が可能と考えられること。（例：支援対象人数が少なく、その特定も容易であり、かつ、事業内容も輕易（案内の発送等）であれば、団体が用意した後納郵便に県において宛名シールを貼り付けて送付すれば足りると考えられること。）
- ウ その他の理由があること。（例：事業の内容及び個人情報の範囲が既に個人情報提供済の事案（別の団体が行う別の事業）と重複していること。（同一地域において同一の物資（既に充足していると考えられるもの）を配布しようとする場合等が想定される。））

（事業の公益性）

第 1 当該事業の内容が、被災者の生命、身体、財産その他の権利利益の回復、保護、保全又は増進に資するものであり、被災者に対する支援としてふさわしいものであると認められること。

【趣旨】

県が連携・協力して実施することが適当と認める被災者支援事業か確認するとともに、当該事業の内容について、県の保有する個人情報を提供すべき公益性（公平性）があるか確認するものである。

【解釈・運用】

- (1) 対象となる事業は、原則として、団体が実施機関（各室課等）と協働して実施するものに限るものとするが、その範囲については、場所や時間によって変化する被災者の需要（支援ニーズ）に応じ、柔軟に解釈するものとする。

例えば、生命や財産の損害の回復等に係るものに限らず、被災による心理的負荷の軽減に係るものについても、その範囲に含まれるものである。

なお、各室課等において当該範囲の解釈について疑義が生じた場合、団体から申出を受ける前であっても、法務学事課に協議するものとする。

- (2) 上記趣旨にいう「県の保有する個人情報を提供すべき公益性（公平性）」とは、対象となる事業について、被災者支援事業としての公平性が担保されているか否かを主眼

として判断することを意図するものであり、不特定多数を対象とする事業のみならず、事業の内容によっては特定少数の被災者を対象とするもの（例えば、特定の地域の被災遺児・孤児の支援等）についてもその公益性を認める場合があると考えられる。よって、事業の公益性については、当該事業の規模のみならず、団体の規模、事業の内容等に即して個別に判断する必要がある。

《判断基準》

対象となる事業が次に掲げる条件の全てを満たす場合、当該事業については、その内容上、県の保有する個人情報の提供の対象となるべき公益性を有するものと考えられる。

ア 被災者に対する支援を主たる目的とするものであること。

イ 県事業として実施することが適当な支援事業であること。（例えば、人的、金銭的な制約から県ではできないが、県が実施しても問題がない事業であるかなど。ただし、国・県・市町村との役割分担、部局間の事務分掌等の観点に偏り、安易に縦割りで判断することのないよう努めること。）

ウ 原則として、不特定多数の被災者を対象とするものであること。ただし、前述のとおり、事業の内容によっては特定少数の被災者を対象とするものについても公益性を認めるべき場合があると考えられること。

エ 原則として、当該団体等の営利等を目的とするものでないこと。

オ 公序良俗に反するものでないこと。

（目的の明確性・整合性）

第2 当該事業について、個人情報を取り扱う目的（以下「取扱目的」という。）が明らかであり、かつ、当該取扱目的と当該事業全体の目的とが整合していると認められること。

【趣旨】

個人情報の用途が明確であり、かつ、事業全体の目的（達成しようとする成果）と整合しているか確認するものである。

【解釈・運用】

各室課等は、団体から示された個人情報の具体的な用途が、当該団体が事業において達成しようとしている成果と明確に合致するか否かを、団体から提出を受けた書類の他、ヒアリングその他の方法により確認するものとする。

《判断基準》

対象となる事業が次に掲げる条件の全てを満たす場合、当該事業については、個人情報を取り扱う目的の明確性・整合性が認められるものと考えられる。

ア 事業における個人情報の用途に具体性があること。

イ 事業全体の目的（達成しようとする成果）と提供する個人情報の用途とが明確に合致すること。（曖昧な部分や、明らかに整合しない部分がないこと。）

（提供内容の合理性等）

第3 当該事業のため必要とする個人情報の対象者の範囲及び個人情報の項目が、取扱目的に照らして合理的であり、必要かつ最小限のものであると認められること。

【趣旨】

事業における個人情報の用途に照らして、提供対象となる個人情報の範囲及び項目に過不足がないか確認するものである。

【解釈・運用】

各室課等は、第2で確認した個人情報取扱目的に照らして、提供対象となる個人情報の範囲及び項目に過不足がないか確認するものとする。

なお、当該確認に当たっては、個人情報の項目毎に、当該項目の提供が必要な理由を明確に整理するものとする。

《判断基準》

対象となる事業が次に掲げる条件の全てを満たす場合、当該事業については、提供対象となる個人情報の範囲及び項目に過不足がないものと考えられる。

ア 事業の目的と、情報提供の対象となる個人の範囲とが整合していること。(ズレていたり、過大になったりしていないこと。)

イ 事業の目的に照らして、提供対象となる個人情報の項目が必要最小限であること。

(提供の必須性)

第4 県から個人情報の提供を受けなければ、当該事業の目的が達成し難いと認められること。

【趣旨】

事業が時宜を得たものであり、時機を失すればその効果を損ない、事業の目的が達成されないおそれがあるか確認するとともに、事業の実施のために県から個人情報の提供を受ける必要性の高さ(事業実施上の必須性)を確認するものである。

【解釈・運用】

(1) 県と市町村において同一内容の個人情報を保有している場合においても、市町村が当該市町村の個人情報保護条例の定めにより当該個人情報を提供することができない場合には、県から個人情報の提供を受ける必要性があるものと認められる。

また、両者とも個人情報の提供が可能な場合であっても、市町村の事務都合により、団体から申出のあった時点において県のみが当該個人情報を提供することができる状況にあり、かつ、速やかに事業を実施しなければ当該事業の効果が損なわれると認められるときにも、同様に、県から個人情報の提供を受ける必要性があるものと認められる。

(2) 「事業実施上の必須性」については、上記(1)のほか、事業において県の保有する個人情報を使用しなければならない理由(例えば、団体が自ら個人情報を収集しようとする場合、事業の時機を失し、結果として被災者の不利益となると考えられること等)についても併せて確認しなければならない。

《判断基準》

対象となる事業が次に掲げる条件の全てを満たす場合、当該事業については、個人情報の提供の必須性が認められるものと考えられる。

ア 事業の内容が、その時点の被災者の支援ニーズに即したものの又は事業実施予定時期(将来)における被災者の支援ニーズを捉えたものであると考えられること。

イ 県からの提供以外の方法により個人情報を収集しようとした場合、当該事業を本来実施すべき時期に実施することができず、事業の効果が著しく低減すると考えられること。

ウ 当該団体が自ら個人情報を収集しようとした場合、多大な経費と労力を要したり、事業実施の時機を失したりするなど、事業の円滑かつ効果的な実施が困難となるおそれがあること。

エ 必要とする個人情報の対象者の範囲及び個人情報の項目に照らして、県以外の者から個人情報の提供を受けることが困難であると考えられること。

(実施可能性)

第5 当該事業が、当該団体の人的体制、当該事業の実施に関する計画の内容、当該事業の実施の具体的な方法等を総合的に勘案した結果、円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであること。

【趣旨】

事業について、その規模が適正であり計画どおり実施される可能性の高いものであるか確認するものである。

【解釈・運用】

各室課等は、団体から示された事業計画等について、当該事業が円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであるか否かを、団体から提出を受けた書類の他、ヒアリングその他の方法により確認するものとする。

《判断基準》

対象となる事業が次に掲げる条件の全てを満たす場合、当該事業については、計画どおり実施される可能性が高いものと考えられる。

- ア 事業の規模が、当該団体の規模に照らして過大なものとなっていないこと。
- イ 事業の実施に関する計画（実施細目、人員、スケジュール、資金、協力団体等）の内容が具体的であり、事業の目的（達成しようとする成果）と整合していること。
- ウ 事業の内容が、被災者や他の個人、団体等と紛争を生じるおそれのあるものでないこと。
- エ 事業が計画どおり実施されると見込まれること。

（責務遵守性）

第6 当該団体が、個人情報を取り扱う者として自らの責任で個人情報の保護に関し必要な措置を講ずることができるものであると認められること。

- 2 当該団体が、県から提供を受けた個人情報を当該取扱目的以外に使用しないことを誓約するものであるほか、県の実施機関が付する条件を遵守するとともに、県の実施機関が求める措置を確実に講ずることができることと認められること。

【趣旨】

団体について、個人情報を取り扱う者としての責務を遵守することができることと認められるか確認するものである。

【解釈・運用】

- (1) 団体の個人情報取扱体制及び個人情報保護能力については、団体から提出を受けた個人情報取扱体制調書（様式第4号）その他の書類の他、ヒアリングその他の方法により確認するものとする。
- (2) 県から提供を受けた個人情報の目的外使用をしないこと、県が提供にあたり付す制限や求める措置を遵守する旨の誓約は、誓約書（様式第2号）により行わせるものである。
- (3) 各室課等は、条例第5条第2項の規定により、個人情報の提供を受ける団体に対し、当該個人情報について使用目的及び使用方法の制限その他の必要な制限を付すとともに、その適切な取扱いのために必要な措置を講ずることを求めなければならない。
各室課等が団体に対して付すべき制限及び求めるべき措置は、おおむね次のとおりである。
 - ア 使用目的の制限（団体が申し出た取扱目的以外の目的に個人情報を使用しないこと。）
 - イ 使用方法の制限（団体が申し出た使用方法以外の方法で個人情報を使用しないこと。）
 - ウ 使用期間の制限（団体が申し出た事業期間の経過後においては個人情報を使用しないこと。）
 - エ 個人情報を取り扱う者の制限（個人情報を使用することができる者の範囲は、団体が申し出た範囲に限ること。）
 - オ 使用後の取扱いの指示（個人情報の使用が終了した後、当該個人情報の記録された

- 媒体について、各室課等の定めるところにより、廃棄、返却等の対応を取ること。)
- カ 再提供の禁止（別の団体に対する個人情報の提供を禁ずること。ただし、事業計画上、当該団体と関係を有する団体に対する個人情報の提供が予定されている場合には、必要最小限の再提供を認める場合があること。)
- キ 複製の制限（個人情報の複製（印刷等）は、事業内容に照らして必要最小限に留めること。)
- ク 本人への周知（県から個人情報の提供を受けて事業を実施するものであること、個人情報の使用の停止を申し出ることができることについて、本人に周知すること。)
- ケ 個人情報の漏えい、滅失及びき損の防止（個人情報が漏えい、滅失及びき損することのないよう、必要な措置を取ること。)
- コ 団体の個人情報取扱規程に沿った個人情報の取扱いの確保（団体内部における個人情報の取扱いに関する明文の取決めに沿って、個人情報を取り扱うこと。)
- サ 個人情報を取り扱う者に対する研修の実施（団体内部において、個人情報を取り扱う業務に従事する者に対し、必要な研修を行うこと。)
- シ 調査・報告の実施（県は、必要に応じ、団体における個人情報の取扱いについて調査し、又は報告をさせることができること。)
- ス 指示の実施（県は、必要に応じ、団体における個人情報の取扱いの適正を確保するため、団体に対し、必要な指示を行うことができること。)
- セ その他必要な措置の実施（キ～スに掲げる措置のほか、個人情報の適切な管理のために必要な措置を団体自ら講ずること。)
- (4) 各室課等は、個人情報の提供に際し、(3)の措置要求を、被災者情報提供条件通知書（様式第7号）を当該団体に対して交付することにより行うものとする。
なお、当該通知書の内容については、あらかじめ法務学事課の確認を経るものとする。
- (5) 各室課等は、個人情報の提供の後遅滞なく、団体から、被災者情報受領書（様式第8号）を提出させるものとする。
- (6) 各室課等は、被災者情報提供条件通知書（様式第7号）及び被災者情報受領書（様式第8号）の写しを、法務学事課へ送付するものとする。

《判断基準》

団体が次に掲げる条件の全てを満たす場合、当該団体の責務遵守性が認められる。

- ア 個人情報取扱事業者に該当する場合は、個人情報保護法の規定による義務（努力義務を含む。）を履行し得る体制を整えていること。（個人情報取扱事業者に該当しない場合であっても、これに準じた体制を整えていること。)
- イ 個人情報の取扱いに関して、団体内部において明文の取決めがあり、かつ、個人情報の取扱いに関する責任者を定めていること。
- ウ 県から提供を受けた個人情報の取扱いに関して目的外に利用しないことや、県の実施機関が付す制限を遵守することについて、あらかじめ誓約していること。
- エ 県から提供を受けた個人情報の取扱いに関して県の実施機関が求める措置を講ずることについて、あらかじめ誓約しており、かつ、団体の個人情報取扱体制等に照らして、当該措置を確実に講ずることができると見込まれること。

（権利利益侵害性）

第7 個人情報の提供によって、当該個人情報の対象者である被災者本人の権利利益を不当に害するおそれがないと認められること。

【趣旨】

個人情報の提供により生じるおそれのある権利利益の侵害と事業によって実現される公益を比較衡量し、権利利益を不当に侵害するおそれがない（侵害があったとしても受忍範囲内に留まる）ことを確認するものである。

【解釈・運用】

- (1) 事業によって実現される公益については、当該事業の対象となる被災者全体が受ける便益として捉えるべきものであるが、個人情報の提供により生じる個人の権利利益の侵害については、原則として個々の被災者の受忍範囲に即して捉えるべきものであり、個々の被災者の権利利益の侵害の総和として捉えるものではない。よって、両者は、定量的な比較になじまないものであり、個別具体の事例に即し、当該時点の状況等に照らして、適時適切に判断する必要がある。
- なお、当該受忍範囲については、個別の事業において必要とされる個人情報の項目に照らして判断されるものであり、個人情報の項目数の多寡や当該項目の内容の重要度に応じて変化するものと考えられる。
- (2) 事業の内容が極めて軽易な場合、当該事業によって実現される公益も極めて小さいものに留まるものと考えられ、そのような場合には、個人情報の提供による権利利益の侵害が当該個人の受忍範囲を超える可能性が高いものと考えられる。

《判断基準》

個人情報の提供によって生じる本人の権利利益の侵害(個々の被災者に対し与える心理的影響等)が、事業の実施によって実現される公益(事業の受益者である被災者全体に対する有形無形の効果)と比較して小さいものであると考えられる場合、当該事業については、本人の権利利益を不当に侵害するおそれがないものと考えられる。

その他〔雑則〕

- (1) 個人情報の提供に関する被災者への周知

答申に基づく個人情報の提供の対象となった事業について、その円滑な実施を図るとともに、当該個人情報に係る本人(被災者)が自己の情報の取扱いについて知り得る状態に置くため、提供先となった団体の名称、事業の内容、提供した個人情報の内容(個人の類型及び情報の項目)について、次のとおり周知するものとする。

ア 実施機関による周知

各室課等は、個人情報を提供する場合、その事前又は事後において、当該提供事案の概要について、必要に応じ、当該個人情報に係る本人に対し、通知その他の適切な方法により周知するよう努めるものとする。この際、自己の情報を提供又は使用しないよう県又は団体に申し出ることができる旨を併せて周知するものとする。

また、法務学事課は、個人情報の提供が行われた場合、当該提供事案の概要について、ホームページ等により、当該提供の翌月に一括で公表するものとする。

イ 団体による告知

個人情報の提供を受けた団体は、当該個人情報を使用した事業における支援対象である被災者に接触する際、次に掲げる事項について書面又は口頭により告知するものとする。

- (ア) 当該事業が、条例の規定に基づき、県から個人情報を受けて行われるものであること。
- (イ) 県による団体への個人情報の提供を希望しない場合、その旨申し出ることができること。なお、当該申出は、県又は団体のいずれに対しても行うことができるものであること。(団体に対して申出があった場合、当該団体を通じて県に伝達すること。)

- (2) 個人情報の提供を希望しない旨の申出があった場合の対応

各室課等は、被災者から個人情報の提供を希望しない旨の申出があった場合、本人の意思に基づき、原則として、当該申出の以後において、当該被災者の個人情報を団体に提

供しないものとする。

また、既に個人情報を提供している場合においては、当該提供を受けた団体に対し、当該個人情報を使用しないよう指示するとともに、必要に応じ、返却、廃棄等の対応を取らせるものとする。

(3) 事業実績の報告

各室課等は、団体が事業の実施を完了した場合、被災者支援事業実施報告書（様式第9号）を提出させるとともに、当該報告書の写しを法務学事課に送付するものとする。

法務学事課においては、事業実績の概要を、ホームページ等により公表するものとする。

(4) その他

各室課等は、この運用方針により難しい事案が発生した場合、速やかに法務学事課へ協議するものとする。

（※様式については、添付を省略する。）

1 総則

1-5 県土の概況

1-5-1 耕地森林別面積調

区 分		面 積	備 考	
耕 地	田	94,100 ha	令和元年耕地及び作付面積統計	
	畑	普通畑	24,900	〃
		樹園地	3,560	〃
		牧草地	27,200	〃
小 計		149,760		
森 林	国 有 林	393,804	いわての森林・林業概要 (R1.11)	
	民 有 林	783,081	〃	
	小 計	1,176,885		

1-5-2 本県極値気象表

要素	地名	盛 岡		宮 古		大 船 渡		県 内※		
		値	年月日	値	年月日	値	年月日	値	年月日	観測所
最高気温	℃	37.2	大13. 7. 12	37.3	昭 8. 7. 23	37.0	平19. 8. 15	38.8	平 6. 8. 14	釜石
								39.5	昭21. 8. 16	一関
最低気温	℃	-20.6	昭20. 1. 26	-17.3	明41. 1. 23	-11.6	昭55. 2. 17	-27.6	昭63. 2. 17	藪川
								-35.0	昭20. 1. 26	藪川
最小湿度	%	7	平20. 4. 22	8	平13. 3. 23	7	昭44. 4. 29			
最大風速・ 風向	m/s	WNW 22.2	昭26. 4. 10	WSW 31.4	大元. 9. 23	SE 21.8	平14. 10. 2			
最大瞬間 風速・風向	m/s	SW 38.6	平16. 11. 27	SSE 43.5	平14. 10. 2	SSE 44.2	平14. 10. 2			
最大10分間 降水量	mm	22.0	昭28. 8. 1	24.5	平28. 8. 30	30.5	平 7. 8. 16			
最大1時間 降水量	mm	62.7	昭13. 8. 15	84.5	令元. 10. 13	58.0	令元. 8. 8	95.5	平27. 6. 16	紫波
								81.0	昭36. 9. 10	大平
最大日降水 量	mm	198.0	平19. 9. 17	319.0	平12. 7. 8	200.0	昭52. 5. 16	333.0	昭63. 8. 29	岳山
								334.0	昭23. 9. 16	世田米
最深積雪	cm	81	昭13. 2. 19	101	昭19. 3. 12	32	昭59. 2. 28	279	平25. 2. 25	湯田
								368	昭49. 1. 27	湯田

観測開始 盛岡 大正12年～ 宮古 明治16年～ 大船渡 昭和38年～

※上段はアメダス観測開始からの値、下段は参考値（気象通報所等の観測値）
（アメダス観測開始：昭和51年～）

1-6 災害の発生状況
1-6-1 岩手県における過去の火山災害以外のおもな災害記録
(明治元年以降)

発生年月日	災害名	災害内容	り災		人的被害		建物		被害		土木被害						水産物被害 千円	船舶被害 隻	被害額 合計 千円				
			世帯数	人員	死者	行方不明	傷者	全焼	半焼	一部破壊	床上浸水	床下浸水	非住家	道路	橋梁	堤防				港湾	その他	農作物被害	
			世帯	名	名	名	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ha	ha	ha		
M2.6~9	凶作	陸奥、陸中工用 降雨治気、降雪																					
9.3.4	火災	大畑町大火						300															
17.11.7	"	盛岡市下ノ橋監 狐より出火						1,432															
29.6.15	津波	三陸津波(最大 波高38.9米)		18,158		2,943		726	4,801													5,456	
"7.12	水害	盛岡市北上川中 津川雪石川出水						950								2							
"8.31	地震	破壊性の地震						310															
35.	凶作 暴風雨	春以来気候不 順、9月暴風雨 来襲																					
37.5.27	火災	宮古市新町より 出火						580															
38.	凶作	7月低温霧雨、 9月暴風雨来襲																					
43.9.3	水害	盛岡市大洪水		1			17	69	49	271	1,343	1,147		10									
T2.	凶作	陰湿多雨、風水 害																					
S6.8.10	水害	盛岡市に集中豪 雨(雨量160 mm)		36,978	1,408	1,263		497	2,697	514	2,076												8,284
8.3.3	津波	三陸津波(最大 波高23米)				805		497	2,697	514	2,076												
9.	凶作	4月気候不順、5 月豪雨、7月霖 雨低温																					
13.8.15	雷雨	不連続線に伴う 雷雨(雨量 199.8mm)			2			2	8	5	436	2,139	114	254	115	202				320	1,956		
S13.9.1	水害	台風来襲(激甚 地宮古市)		5	9				18			1,256		57	7					75			37
15.9.4	水害	不連続線による 豪雨		1					4	9	325	1,017		108	69								
16.7.22	水害	台風来襲(沿岸 部雨量200mm) 沿岸		1					8		150	1,400		11	37					170			
11.7~8	凶作	凶作																					
18.10.3	水害	台風来襲(宮古 市雨量238mm)		1	1			230			26	489		1	1						457		
"11.22	火災	釜石市大火																					
19.3.10	雪害	豪雪(下閉伊郡 1日積雪5~6 m)		163	1	29		209						7									13
20.2.6	火災	甲子村大火						220															
"4.17	火災	久慈市大火						955															
22.7.23	水害	豪雨(胆江地方 3日間雨量283 mm)		1							272	956			23	6				884	15,665		
"8.3	水害	豪雨により和賀 川増水									1,492			3	1								

資料論 1 総則

発生年月日	災害名	災害内容	り災		人的被害			建物					被書					土木被害					農作物被害		水産物被害	船舶被害	被害額合計										
			世帯数	人員	死者	行方不明	傷者	全壊	流失	半壊	一部破損	床上浸水	床上浸水	床下浸水	非住家	道路	橋梁	堤防	港湾	その他	流埋	冠水	千円	千円				千円									
# 9. 14	水害	カスリン台風来襲(金石雨量210.6耗)			45	43	1	274	422						29,265						493	282	263			41,386			2		千円			千円			
# 12. 29	火災	山田町大火					675																														
23. 4. 14	火災	神賀郡矢沢村大火					109																														
# 9. 16	水害	アイオン台風来襲(水沢雨量285.2耗)			393	316	494	1,068	1,343	1,304				15,774	14,157	10,210	2,464	1,098	1,621	20	418				60,000								12,758,745				
24. 6. 9	火災	江刺郡羽田村大火					180																														
S25. 1. 31	暴風雨	下閉伊郡下被書甚大					2	21		326							4			9														1			
# 8. 5	水害	熱帯性低気圧による豪雨					3	6	1				398	1,696			326							126	15,797												
26. 5. 13	火災	磐石町駅前より出水										126																									
29. 5. 9	風害	低気圧による風豪雨(盛岡瞬間最大23.6m/s)			1		1	5		219																											
30. 5. 29	風水害	低気圧による風水害	82	405			1	1					75	1,134	15	37	12	14		22													252,433				
# 6. 24	水害	梅雨前線による豪雨(湯田雨量329耗)	266	1,262	2		2			1			365	966	35	12	12	17		6														1,413,783			
# 7. 22	水害	梅雨前線による豪雨			1		1						742				20	20	5		6																
# 12. 26	風水害	低気圧による風水害	28	145	2		2	1		3			6	4	1	13	7	13		2															145		
31. 2. 8	風害高潮雪期	8日～28日低気圧による災害			1		1						2		4	6	10	5		2																9	
# 7. 22	水害	梅雨前線による豪雨			1		1						472				20	20	5		6					583											
32. 9. 6	風水害	台風10号来襲			1		1										1			2																	
# 12. 12	風水害	低気圧による風水害	430	2,425			4	47		85					713					1															1		
33. 7. 22	風水害	台風11号来襲	16	68			1	2					16	133	5	19	7	9		6																754	
# 9. 18	風水害	台風21号来襲(安代町雨量301耗)	1,851	5,700	2	6	6	2	3	2			5	1,201	2,411	59	59	25		37					5,829										6,236,318		
# 9. 26	風水害	台風22号(狩野川台風)来襲	2,914	12,354	2	1	14	32	8	72			137	4,823	234	324	4,120	30		73					3,194										151		
34. 4. 10	風水害	低気圧による風水害	12	68	1		3			7			25		28		4																		3		
# 8. 26	風水害	前線による風水害	236	941			1	3	3	10			3	210	500	61	12	9		27					324										7		
S34. 9. 26	風水害	台風15号(伊勢湾台風)来襲	318	1,481	26	3	4			86			230	216	1,116	340	31	21		13				719											6		
35. 1. 16	暴風雪	雪崩災害			8		2								3					3					100,000										143		
# 5. 24	津波	チリ地震津波来襲(最大波高8.1米)	6,974	35,921	57	5	308	465	497	1,209				3,096	1,557	1,760	10	34	15	24				1,963												11,513,939	
36. 5. 30	火災	低気圧による強風(三陸フェーン火災)	1,088	4,873	4																				29,898											6,120,786	
# 9. 16	風水害	台風18号(第2室戸台風)来襲	472	2,198			13	141		404			4,424	5,106																							1,790,844

資料論 1 総則

発生日	災害名	災害内容	り災			人的被害			建物			土木被害				農作物被害		水産物被害	船舶被害	被害額合計				
			世帯数	人員	死者	行方不明	傷者	全壊	流失	半壊	一部破損	床上浸水	床上浸水	棟	非住家	道路	橋梁				堤防	港湾	その他	流埋
" 10.10	風水害	台風24号来襲 三陸沿岸に強風	11	96			1	2	10	12	2	27	34	2	1							6	千円	
37.1.2	風水害	雨、高波	4	24		2			1	21	2	1	20									59	290,000	
38.1.6	風水害	豪雪災害(最大積雪3米)			11		2							87									232,105	
" 3.5	雪害	雪崩災害(湯田 村,川尻宮林署 飯場)		5			12																	
" 10.13	津波	エトロフ沖地震 津波																					85,213	
39.2.9	雪害	1月31日~2月1 日,9日~10日 の豪雪			4		10	4	12	380			141	87									2,807,288	
" 3.6	雪害	雪崩災害(久慈 市山根)			1		2																43,004	
40.1.8	高潮	昭和40年1月8日 ~9日の低気圧 による強風高潮 災害								1	4	27	17	10		2	88					232	448,977	
" 2.4	津波	1965年2月4日ア リュウジャン地 震津波																					5,787	
S40.7.15	豪雨	梅雨前線の北上 に伴なう集中豪 雨(西和賀地 方)	797	4,232			2	3	3			697	125	128	144					733	4,097.8		1,057,146	
" 9.10	暴風雨	台風23号の来襲 (主として風の 被害)			1		1			8		43		8									529,000	
41.6.28	暴風雨	台風4号の来襲	3,077	14,083	2				4	92	2,522			256	26	297	1		1	148.0		5	2,716,346	
" 9.25	暴風雨	台風26号の来襲 (主として県南 地方)	1,878	8,029					6	5	278	1,575		115	12	64	1	2		96		3	817,395	
" 10.13	豪雨	沿岸北部を中心 とした集中豪雨 夏の秋にかけ ての異常気象	2,742	12,380	12		3	44	86	14	832	1,439		151	27	41	4			940		110	1,634,944	
7~10	冷害	低気圧による大 雨																					2,908,351	
42.4.19 ~20	水害	内陸中部(北上 市口内中心)の 雷雨降雹	172	709					1		9	156		96	12	61				5			228,795	
" 6.5	雷雨降雹	沿岸北部の秋雨 前線による集中 豪雨	126	556					1	1	25	99		23	13	28				140			1,057,061	
" 9.21 ~22	豪雨	台風34号主とし て沿岸	2,492	10,360	1		1	1	2	8	882	1,397	179	246	37	128	4	1	704				1,913,669	
" 10.28	暴風雨	1968年十勝沖地 震	9	58	2		4	11	45	296	93	124	118	86	3	4	9	2		163	192	1,036	124,886	
43.5.16	地震	東北、県南部の 豪雨降雹	569	2,655										21		22				323.1			2,205,475	
" 6.21	雷雨降雹	県中部の降雹																					113,000	
" 6.29	降雹	県中部の降雹																					121,368	
" 8.11 ~12	水害	低気圧による大 雨	1,103	4,936					1		56	1,024	302	155	32	64		1	26.0		1,903		531,294	
" 8.20 ~21	水害	低気圧による大 雨	24	113						1		23		94	3	40				0.7	3,492		252,901	

資料論 1 総則

発生年月日	災害名	災害内容	り災		人的被害			建物				被害			土木被害						農作物被害		水産物被害	船舶被害	被害額合計		
			世帯数	人員	死者	行方不明	傷者	全壊	流失	半壊	一部破損	床上浸水	床上浸水	非住家	道路	橋梁	堤防	港灣	その他	流埋	冠水						
"8.29 ~30	風水害	台風10号による風水害	97	364					戸	戸	棟	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ha	ha	千円	千円	隻		千円		188,116	
44.3.12 ~13	波浪	低気圧による波浪																									511,124
S44.5.6	林野火災	異常乾燥による山林火災	29	153						49																	1,047,994
"5.12 ~13	山林火災	異常乾燥による山林火災	2	13	1					2																	12,660
"7.28~31 8.5	大雨	前線による大雨及び台風7号による大雨	472						28	525	37	159	16	119			26	5.0	2,219.1							1,095,076	
"8.23	波浪	台風9号による波浪	220	824					4	18	5	2	2	6										7,520		272,086	
"9.18	豪雨	集中豪雨	1,272	5,067					3	12	114	43	4			32	3.0	104.15								115,245	
45.1.31 ~2.1	水害	低気圧による豪雨	42	195	4	3	9	27	154	1	44	38	5	15	1	51	2.0							1,590,578		2,555,763	
"8.1 ~2	水害	岩手県内陸北部の集中豪雨										11	3	12			43.0										151,996
"10.16	地震	秋田県南東部の地震	4	16			1	2	2	230		37	2	3	2	2	6.0										362,327
46.1.16 ~19	波浪	低気圧による高波					1																	1,037,449		1,179,376	
"5.12	林野火災	異常乾燥による林野火災														1											36,915
"7.30	飛行機事故	全日空機空陸触事故			162				1																		1,110
"9.11 ~13	大雨	前線と台風26号による大雨										59	3	45	2									94,634	8	463,874	
47.1.12 ~13	波浪	南極低気圧による高波	3	7		1			5	32		8	1	4	9		0.02							1,740,435	63	7,420,484	
15~16 "7.7 ~9	大雪	梅雨前線による大雨	7	36					7	45		53	7	54			13.61		2,275							1,003,243	
"8.2 ~4	水害	大雨	28	100					4	19	394	18	3	23	1											214,448	
"9.12	豪雨	集中豪雨と降雹	34	115								4														301,874	
"9.15 ~17	大雨	台風20号による大雨	205	756	3	3			3	170	890	187	27	133	13	3	68.93		(倒伏) 34,026					90,696	17	2,256,573	
"11.21	水害	大雨	39	142	1	1			34	978	8															21,684	
48.6月 下旬	干害	長期干ばつ																								6,963,867	
S49.1月 下旬	大雪	南極低気圧による大雪	1	2					1	1		4												452,398	64	1,742,288	
~2月上旬	波浪	太平洋側の大雨																									5,696,404
50.3.21	大雨	低気圧による大雨	224	837	2		1	4	10	214	1,160	317	28	317	12	1	110		1	1,106,024					8	1,932,780	
"11.12 ~13	高波	低気圧(台風19号)による大雨				2						4															1,453,505
51.1.2	林野火災	異常乾燥による林野火災	7	36				2	5																		1,349,383
"9.8 ~14	大雨	台風17号と前線による大雨	1	4					2	1	16	3	4	50			29.8										1,280,166
"10.20 ~21	大雨	日本海低気圧による大雨と強風	24	83			1	3	1	20	693	52	2	23			1.0										

農業被害 1 総則

発生年月日	災害名	災害内容	り災				人的被害				建物						土木被害			農作物被害			水産物被害	船舶被害	被害額合計		
			世帯数	人員	死者	行方不明	傷者	全壊	流失	半壊	一部破損	床上浸水	床上浸水	床下浸水	非住家棟	道路	橋梁	堤防	港湾	その他	流埋	冠水				千円	千円
〃 夏季	冷害	異常低温による冷害																									41,518,959
52.5.15~17	大雨	低気圧の北東進に伴う太平洋側の大雨	224	869	4		8	6	20	12	186	1,481	363	488	28	487		2	66							1	6,785,623
53.2.20	地震	宮城県沖地震					4		4,424					15	4				1.6								999,181
〃 6.12	地震	1978年宮城県沖地震	7	31			11		7	621			297	144	16	32		3	210.0								4,543,669
〃 6月〜9月	干ばつ	6月から9月にかけての干ばつ																									2,696,500
54.3.31	強風	低気圧による強風と波浪	376	1,487	2		42	72	304	1,485			1,927														2,946,025
〃 8.4	大雨	前線による大雨	248	890			3			2	221	735	329	365	5	446			35.5								11,138,577
〃 10.19	大雨	台風20号による大雨と強風波浪	560	1,919	1		7	3	4	24	527	1,937	357	632	25	572		3	76.6								10,018,774
55.8.26	大雨	低気圧による大雨	9	29	1				1	1	8	204	9	141	7	97			1.49								3,209,547
〃 12.23	暴風	低気圧による暴風	8	41			2	3	4	56	1	3	104	17													14,207,636
〃 12.23	大雨	異常低温による冷害																									68,180,000
S55	冷害		1	2	1		2		1	1		1	1	14													29,364
S56.4.19	大雨	低気圧による大雨と強風					2		2	1		14	9	65	1	92			2.6								2,290,531
S56.8.23	暴風	台風15号による暴風	1,119	4,210	4		46	17	81	1,165	945	1,431	2,749	1,683	78	1,562	1	2	5,481								93,929,639
56.9.25	大雨	低気圧による大雨	319	1,064	3		4	4	5	11	265	1,019	163	371	6	171			82.9								4,654,496
57.4.15	大雨	低気圧による大雨	192	675					1	4	7	173	25	274	3	274			21								3,564,551
57.5.20	大雨	低気圧による大雨	2,699	8,472	2				2	4	683	1,812	1,030	185	8	286			188								7,385,716
57.8.30	大雨	台風13号と雷雲による大雨	2,101	7,567						2	321	1,669	879	360	25	269	1	9	277								6,970,998
57.9.10	大雨	台風18号と前線による大雨と暴風	819	2,830							254	509	128	253	13	233			2								4,238,870
57	冷害	異常低温による冷害																									14,525,060
58.4.27	火災	異常乾燥下における林野火災	71	243	1		26	47	8	223			233														5,068,831
59.2.1	強風	強風	4	16	5		22		4	177			212	70					1.25								1,358,515
59.2.1	低温	低温による道路の凍上災害												1,569													7,755,600
59.4.19	大雨	低気圧による大雨、雪、風浪	7	37					6	27	1	34	59	354	11	651		4									7,347,144
60.1.1	低温	低温による道路の凍上災害												1,319													8,307,629
60.6.30	大雨	台風による大雨	1	3						1	1	16	6	119	13	229		3	1.02								3,102,589
61.2.1	低温	低温による道路の凍上災害												1,930													11,284,496

資料論 1 総則

発生年月日	災害名	災害内容	り災			人的被害			建物				被書					土木被書			農作物被書		水産物被書	船舶被書	被害額合計		
			世帯数	人員	死者	行方不明	傷者	全壊	流失	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	非住家	道路	橋梁	堤防	港湾	その他	流埋	冠水	被書				被書	
61.8.5 ~8.6	大雨	台風10号及びびとの後の低気圧による大雨災害	55	185	1	名	名	2	名	戸	746	棟	759	44	1,122	7	3,272	千円	隻	千円	19,095,757						
62.1.9	地震	岩手県中部沿岸地震					8																				1,013,117
62.8.16 ~8.19	大雨	低気圧による大雨災害							206	261	24	393	6	516	2	3,670.5											10,522,971
62.9.16 ~9.17	大雨	台風13号による大雨波浪災害							1	30		31		12	3	8.8											1,687,343
63.3.22 ~3.25	融雪	低気圧による大雨融雪災害											68	1	65	6											1,948,300
63.8.28 ~8.31	大雨	低気圧による大雨災害	971	3,762	1				4	118	283	720	49	757	12	3,942.8											37,673,003
63	冷害	異常低温・日照不足による始雪																									30,127,825
H元.2.28 ~3.1	融雪	低気圧による大雨融雪災害																									1,058,000
元.4.11 ~4.12	大雨	低気圧による大雨災害	1	6						1			42		64												1,072,150
元.8.27 ~8.28	大雨	台風17号による大雨波浪災害	1	3					1	1	2	73	3	130	5	20.5									800		3,287,156
元.9.5 ~9.8	大雨	低気圧による大雨災害									3	80	1	209		204.3											3,401,013
元.11.2	地震	三陸沖地震災害			1							14	3	1													911,046
2.9.19 ~9.20	大雨	台風19号による大雨災害	42	145	1				4	43	300	72	418	28	1,063	5	4,489.2										20,373,221
2.11.4 ~11.5	大雨	低気圧による大雨災害	239	886	1	1	1	2	4	11	957	309	877	33	1,059	5											21,340,942
3.2.15 ~2.17	暴風 波浪	低気圧による暴風雨・波浪災害	1	3					1	24	2		24		3	19	3										13,592,822
3.8.30 ~8.31	大雨	台風14号による大雨災害	54	170	2				3	54	130	16	305	13	696	6	357.3										15,013,879
3.7月中旬 ~8月中旬	冷害	異常低温・日照不足による冷害																									25,761,883
5.7.28 ~7.29	大雨 洪水	低気圧による大雨・洪水災害	50	145	1	1	1	2	5	47	139	69	232	6	736												17,480,405
5.7月 ~8月	冷害	異常低温・日照不足による冷害																									102,690,997
6.2.21 ~2.23	暴風 雪	低気圧による暴風・暴風雪災害					6																				152,671
6.9.14 ~9.16	大雨	秋雨前線による大雨災害	51	152	1				1	53	165	25	175		166	3	1										4,409,754
6.9.18 ~9.22	大雨	台風24号による大雨・暴風災害																									4,051,161
6.9.29 ~9.30	大雨 暴風	台風26号による大雨・暴風災害	35	82	1				4	45	185	70	162	5	250												6,453,590
6.10.4	地震	平成6年(1994年)北海道東方沖地震									2																1,238,948
6.12.28	地震	平成6年(1994年)三陸はるか沖地震									4	5															642,782
7.1.7	地震	岩手県沖地震									3																182,808
7.8.2 ~8.9	大雨	梅雨前線による大雨災害	8	24					1	8	28	32	157	4	321												9,396,266

発生日月	災害名	災害内容	世帯数		人員	人的被害		建物		被葺					土木被害				農作物被害		水産物被害	船舶被害	被害額合計																	
			死者	行方不明		傷者	全壊	流失	半壊	一部破損	床上浸水	床上浸水	非住家	道路	橋梁	堤防	港湾	その他	流埋	冠水				千円	千円															
9.5.2 ~5.3	林野火災	異常乾燥・強風による林野火災				1																			1,049,404				千円	隻										
9.6.28	大雨	台風8号による大雨・暴風災害																																					2,551,306	
10.6.27	大雨	梅雨前線による大雨災害																																					1,151,031	
10.8.13	大雨	梅雨前線による大雨災害																																					1,579,713	
10.8.26 ~9.1	大雨	前線の停滞による大雨災害																																					20,651,458	
10.9.3	地震	岩手県内陸北部における地震災害						9																															7,916,068	
10.9.13	地すべり	江刺市における地すべり災害																																					1,088,055	
10.9.15 ~9.16	大雨	台風5号による大雨・暴風災害						2																															2,721,619	
10.9.30 ~10.2	大雨	秋雨前線による大雨災害																																					1,478,413	
11.7.12 ~7.14	大雨	熱帯低気圧による大雨災害						1																																13,827,705
11.10.27 ~10.28	大雨	低気圧による大雨災害						2																																47,146,936
12.7.8 ~7.9	暴風	台風3号による大雨・洪水・暴風災害						1																															5,519,526	
13.1.18 ~1.28	低温	低温による道路の凍上災害																																						6,861,170
13.2.2 ~2.27	低温	低温による道路の凍上災害																																						19,012,055
13.4. 下旬	低温	降霜による農作物等災害																																						1,883,809
13.7.30 ~8.2	大雨	前線停滞による大雨洪水災害																																						3,193,497
13.9.10 ~9.12	大雨	台風15号による大雨洪水災害																																						2,115,064
14.1.27 ~1.28	大雪	低気圧による暴風雪・大雪・波浪災害																																						4,063,903
14.7.10 ~7.12	洪水	台風6号による大雨洪水災害						8																																57,358,038
14.8.12	大雨	低気圧による大雨・洪水災害																																						2,794,972
14.10.1 ~10.2	洪水	低気圧による大雨・洪水・暴風・波浪災害						4																																1,161,979
15.5.26	地震	宮城県沖で発生した地震						91																																11,889,408
15.9.26	地震	平成15年(2003年)十勝沖地震						1																																433,502
16.9.30 ~10.4	洪水	台風21号による大雨・洪水・暴風・波浪災害						1																																7,469,613
17.8.16	地震	宮城県沖を震源とする地震						11																																178,289

発生日月	災害名	災害内容	り災			人的被害			建物			被害						土木被害				農作物被害		水産物被害 千円	船舶被害 隻	被害額 合計 千円				
			世帯数	人員	死者	行方不明	傷者	全焼壊	流失	半焼壊	一部破損	床上浸水	床上浸水	床上浸水	床下浸水	非住家	道路	橋梁	堤防	港湾	その他	流埋	冠水							
18.10.4 ～10.9	大雨 洪水 暴風 波浪	低気圧による大 雨・暴風災害	102	237					6						189	289	6	470			348.5		436,783							16,461,335
19.9.7 ～9.9	大雨 洪水 暴風 波浪	台風9号による大 雨・洪水・暴 風・波浪災害	57	157					2					40	102	3	139	1			26.0		17,210							3,146,205
19.9.17 ～9.20	大雨 洪水	低気圧による大 雨・洪水災害	624	1,790	2					4	105	456				173	6	289					7,000							7,106,049
20.4.4 ～4.8	林野 火災	異常乾燥下にお ける林野火災、 強風																												320,801
20.6.14	地震	平成20年(2008 年)岩手・宮城 内陸地震	785	2,675	2				37	2	4	778			45	259	26	24			90.0		1,000						20,960,328	
20.7.24	地震	岩手県沿岸北部 を震源とする地 震	204	398					90			200			98	27	2				5.3									1,688,431
22.2.28	津波	チリ中部沿岸の 地震による津波																					1,815,325							1,815,325
23.3.11	地震 津波	平成23年(2011 年)東北地方大 平洋沖地震			5,144	1,112		213	19,508			6,571	19,064	6		1,497	90		145	317			13,174,000			13,271			※公共土木+農 林水産 911,245,860	
25.8.9	大雨 洪水	低気圧による大 雨・洪水災害	1,473	4,194	2				10	7	101	1	125	1,068	18	131	11	300												20,023,030
25.9.16	大雨 洪水	台風18号に伴う 大雨・洪水災害	442	1,228	1				5	3	103	4	65	240	2	151	3	369			954		59,880							10,950,940
28.8.30	洪水	台風10号に伴う 大雨・洪水災害	2,991	4,027	24				4	494	2,219	90	104	1,342	2,444	1,021	46	749	5	26			3,829,387							142,869,724
R元.10.11 ～10.13	大雨	台風19号に伴う 大雨災害	2,987		3	7				46	842	923	148	1,028		552	9						1,270,250							29,490,950

1-6-2 岩手県の地震津波災害調

西暦	元号	月日	災害現象	事 項
869	貞観11	7・13	強震, 津波	陸奥国地大いに震いて城邑を破壊し, 海嘯哮吼して溺死者, 多し。
1611	慶長16	12・2	強震, 津波	三陸地方で大地震。東部海岸に大津浪。南部, 津軽にて人馬の溺死3千余等の被害。
1616	元和2	12・6	強震, 津波	三陸地方で強震。大槌町海嘯, 布日にて溺死者多数。
1625	寛永2		鳴 動	奥州の山鳴動す。
1662	寛文2	(9・9)	強震, 津波	南部領大震海嘯。
1663	同 3	8・19	異常鳴響	地震と鳴響あり, 盛岡城の戸障子鳴動。
1677	延宝5	4・6	大地震	花巻地方で晴天午下刻(午後1時過)大地震しばらくやまず。
〃	〃	4・13	強震, 津波	陸中国南部, 地大いに震い, 大槌浦, 宮古浦, 鉾ヶ崎浦等海嘯暴嵐し家を破る。
〃	〃	8・1	大地震, 洪水	花巻地方で大雨。申上刻(午後4時)大地震。市中洪水。
1678	同 6	2・21	地震, 鳴動	陸中鹿角郡水沢近傍の山, 朝より夥しく鳴動して地震う。
〃	〃	10・2	大地震	花巻地方で大地震。御台所脇石垣13間崩る。御城壁大半落等の被害。
1689	元禄2		津 波	陸中海岸津波あり。
1700	同 13	1・20	津 波 か	大槌地方大汐さし, 海辺大分騒ぎす人馬怪我なし。
1703	同 16	12・9	大地震	大槌地方で午後10時過大地震。
1704	宝永元	5・23	大地震	沢内地方で大地震。
1705	同 2	1・26	大地震	夜, 大地震
1717	享保2	5・13	大地震	花巻地方で大地震。方々家大小破する。
1720	同 5	5下旬~ 9 初旬	地震	花巻地方で5月下旬より9月初めまで連日の如く地震。
1732	同 17	8・10 8・12	地震	花巻地方で地震。
1733	同 18	5・12	地震	花巻地方で地震。
1735	同 20	5・6	大地震	花巻地方で大地震。破損なし。
1751	宝暦元	5・21	津 浪	大槌地方で津波。
1756	同 6	8・10	地震	亥の上刻(午後10時)地震。卯の刻(午前6時)にも地震。
1767	明和4	4・24	大地震	沢内地方で大地震。
〃	〃	5・2	大地震	5月2日, 同4日大地震。大風吹き, 時々秋まで地震続く。
1768	同 5	2・21	地震	沢内地方で地震あり。
〃	〃	(7・28)	大地震	沢内地方で大地震。
1769	〃		地震	沢内地方で時々地震。
1770	同 7	5・27	大地震	在所大地震, 所々破損, 多人馬死す。
〃	〃	6・26	大地震	沢内地方で大地震。
1772	安永元	6・3	大地震	沢内地方で6月3日, 13日, 14日地震。

資料編 1 総則

西暦	元号	月日	災害現象	事 項
〃	〃	7・9	大地震	沢内地方で7月9日、14日又ゆる。
1780	同 9	(6・19)	大地震	午前6時大地震。昼の内度々あり。
1793	寛政5	2・17	強震, 津波	両石村にて流失家屋71軒, 船舶19艘, 溺死人あり。釜石村, 大槌村にも被害。
1823	文政6	9・初旬	強 震	9月初旬頃より岩手郡寺田村付近に微震頻発し, 10月23日半破壊性の激震起り, 家屋土蔵の倒壊, 変死者等あり。
〃	〃	9・29	鳴 動	西根山(西岳のことか)鳴動。七時雨山割崩, 滝不動崩落, 右近辺家屋, 土蔵崩れ, 壁落つ。
1830	天保元	1・15	大地震	辰刻(午前8時)大地震。女童子動転す。
1850	同 3	7・20	異常鳴響	夜九ツ時(午前零時)雷の如く鳴る。津波にて山くずれる。
1854	安政元	12・23	大地震	大地震。
1855	同 2	8・15	大地震	夕七ツ時(午後4時)大地震。
1856	同 3	8・23	強震, 津波	強震津波来たり, 宮古附近最も甚しく家屋流失, 倒壊100余戸上る。
1864	元治元	3・29	強 震	三閉伊海岸で地震。所々破損す。
1894	明治27	3・20	小 津 波	根室南々東約120軒の沖合海底で地震。午後8時20分頃本県沿岸に小津波。
1896	同 29	6・15	強震・津波 (三陸津波)	明治三陸地震津波, 三陸海嘯。本県の被害最も甚大にして死者18,158人に及ぶ。
1896	同 29	8・31	陸羽 大地震	和賀郡で最も被害多く, 倒壊家屋多数あり。
1897	同 30	2・20	小 津 波	陸前東海底で地震, 津波あり。気仙郡盛町3尺の高波。
1906	明治39	2・1	津 波	2時間16分にわたる遠地地震記録。被害なし。
1915	大正 4	11・1	津 波	三陸沖で地震, 釜石方面で高さ約2尺の津波。被害なし。
1922	同 11	11・12 ~ 13	津 波	チリで地震。気仙郡下で家屋102戸が浸水。
1931	昭和 6	11・4	地 震	小国村附近で地震(震度5)。小国村, 上閉伊郡金沢村地方で石垣崩壊, 炭がま破壊等の被害。
1933	同 8	3・3	地震, 津波, 大火	明治三陸地震津波。死者1,408名, 傷者805名, 行方不明1,263名, 家屋流失2,969戸, 倒壊1,011戸, 焼失209戸, 船舶流失6,768隻等の被害。
〃	〃	6・19	地 震	金華山東方沖で地震。気仙郡広田, 吉浜, 盛で強震。上閉伊郡甲子村で1名死亡。
〃	〃	8・ ~11・	鳴 動	七時雨山鳴動。奥中山付近で戸障子等がはずれ, 棚の上の物が転落する等の被害。
1946	同 21	4・2	津 波	田老町で津波。
〃	〃	12・21	津 波	宮古地方沿岸で津波。被害なし。
1952	同 27	3・4	津 波	十勝沖で地震。震度宮古4, 盛岡3。沿岸各地で津波。船舶, 水産関係施設等に被害。
〃	〃	10・26 ~ 29	地 震	県下各地で有感地震18回。被害なし。
〃	〃	11・5	津 波	カムチャッカ半島南端で地震。沿岸各地で津波。満潮時と重り漁船養殖施設等に被害。
1953	同 28	11・26	津 波	房総南東沖で地震。沿岸各地に津波。被害なし。
1958	同 33	11・7	津 波	エトロフ島沖で大規模な地震。三陸一带に小津波。被害無し。
1960	同 35	3・21	津 波	三陸沖で地震。本県海岸に小津波。養殖施設に若干の被害。
〃	〃	5・24	チリで地震, 津波	三陸沿岸一带に津波(チリ地震津波)。大船渡市など沿岸各地で死者57名, 行方不明5名, 住家全壊・流失962棟, 船舶流失・沈没・破損2626隻, 港湾施設等に大きな被害。

資料編 1 総則

西暦	元号	月日	災害現象	事 項
〃	〃	7・30	津 波	八戸沖で地震。本県海岸に小津波。被害なし。
1962	同 37	4・30	地 震	宮城県北部で地震（宮城県北部地震）。盛岡，一関，花巻，北上，千厩で震度4，宮古，軽米で震度3。花泉で学校に被害。
〃	〃	12・28	地 震	岩手県沖で地震。震度盛岡4，宮古3。小本，山田両線で9ヶ所の落石。
1963	同 38	10・13	津 波	エトロフ島沖で地震。沿岸各地で養殖施設の一部に被害。
1964	同 39	3・28	地震，津波	アラスカ地震の影響で大船渡湾内の養殖施設に被害。
1968	同 43	5・16	地 震	十勝沖で地震（1968年十勝沖地震）。盛岡で震度5の強震。沿岸各地に津波。港湾施設，船舶等に大きな被害。
〃	〃	6・12	地震，津波	岩手県沖で地震。盛岡，宮古で震度4，大船渡震度3。弱い津波が発生。船舶等に被害。
1969	同 44	8・12	津 波	北海道東方沖で地震。震度は盛岡，一関で3，宮古，大船渡で2。沿岸各地で20～34cmの弱い津波。被害なし。
〃	〃	10・18	地 震	震度は盛岡の4の中震，大船渡，宮古3の弱震。津波，被害なし。
1970	同 45	9・14	地 震	宮城県沖で地震。盛岡，宮古，大船渡で震度4の中震。各地で送電線，土木，農業施設，学校等に被害。
〃	〃	10・16	地 震	秋田県南部で地震。本県西部で震度4～5。国鉄北上線で一時不通。建物損壊244棟等の被害。
1974	同 49	9・4	地 震	岩手県沖で地震。盛岡，宮古で震度4。落石，がけくずれ，停電等の被害。
1978	同 53	6・12	地 震	宮城県沖で地震。大船渡で震度5，盛岡，宮古で4。道路損壊，堤防決壊，がけくずれ等の大きな被害。
1979	同 54	5・22	地 震	岩手県沖で地震。震度宮古3，盛岡，一関，大船渡2。津波なく，農業用施設に若干の被害。
1982	同 57	6・1	地 震	宮城県沖で地震。震度盛岡4，宮古，大船渡3。津波なし。
1983	同 58	5・26	地 震	日本海中部で地震。震度盛岡4，宮古・大船渡3。農地農業用施設等に被害。
1986	同 61	3・2	地 震	宮城県沖で地震。震度盛岡，宮古4，大船渡3。津波なく，土木施設に被害。
〃	〃	5・26 ～ 7・	地 震	奥中山付近で群発地震。被害なし。
1987	同 62	1・9	地 震	岩手県中部沿岸で地震。震度盛岡，大船渡5，宮古4。津波なく，建物，土木施設等に被害。
〃	〃	2・6	地 震	福島県沖で地震。震度盛岡，宮古，大船渡で3。土木施設に被害。
〃	〃	4・7	地 震	福島県沖で地震。震度盛岡，宮古，大船渡で3。土木施設等に被害。
1989	平成元	11・2	地 震	岩手県沖で地震。震度盛岡，大船渡4，宮古3。岩手県で負傷者2名。道路に落石のため一部不通。津波被害なし。
1992	同 4	7・18	地震，津波	三陸はるか沖で地震。震度盛岡，宮古，大船渡で3。宮古で21cm，大船渡で23cmの津波が発生。被害なし。
1993	同 5	1・15	地 震	釧路沖で地震（平成5年（1993年）釧路沖地震）。震度盛岡，宮古，大船渡で4。花泉で農地農業用施設（ため池）に被害。津波あり。津波による被害なし。
〃	〃	7・12	地 震	北海道南西沖で地震。震度盛岡2，宮古，大船渡で1。津波なし。被害なし。
1994	同 6	10・4	地震，津波	北海道南西沖で地震（平成6年（1994年）北海道南西沖地震）。震度盛岡，大船渡で4。宮古3。宮古103cm，大船渡72cmの津波が発生。水産関係等に被害。
〃	〃	10・9	地 震	北海道東方沖で地震。震度盛岡2，宮古，大船渡で1。津波なし。被害なし。
〃	〃	12・28	地震，津波	三陸はるか沖で地震（平成6年（1994年）三陸はるか沖地震）。震度盛岡5，宮古，大船渡で4。宮古50cm，大船渡27cmの津波が発生。土木施設等に被害。
1995	同 7	1・7	地 震	岩手県沖で地震。震度盛岡5，宮古，大船渡で4。津波なし。農地農業用施設等に被害。
〃	〃	7・30	津 波	チリ北部で地震。宮古49cm，大船渡21cmの津波が発生。被害なし。

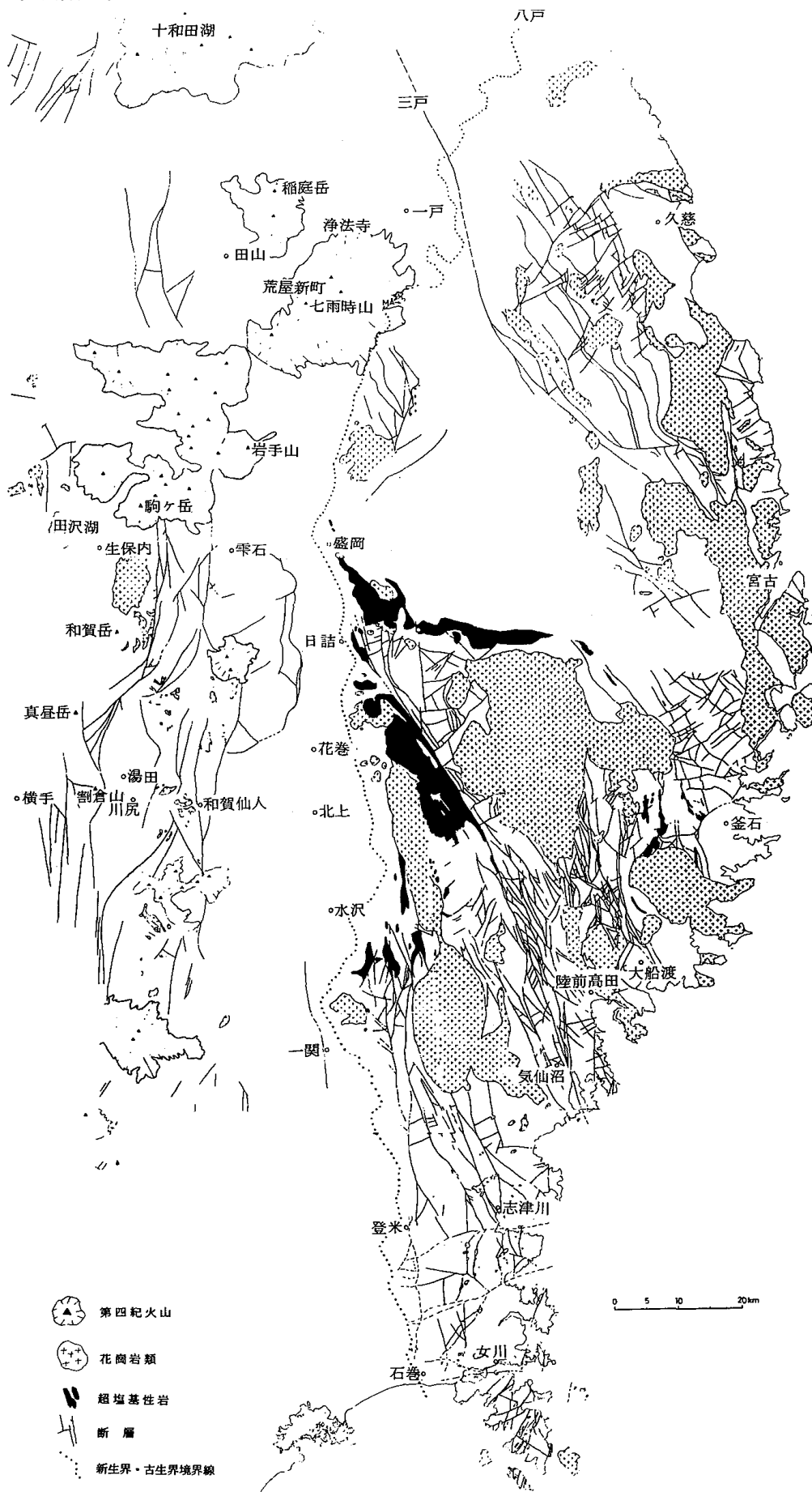
資料編 1 総則

西暦	元号	月日	災害現象	事 項
〃	〃	12・4	津 波	択捉島の南南東170km付近で地震。宮古21cm, 大船渡20cmの津波が発生。被害なし。
1996	同 8	2・17	津 波	ニューギニア島付近で地震。宮古16cm, 大船渡16cmの津波が発生。被害なし。
1998	同 10	9・3	地 震	岩手県内陸北部で地震。震度雫石町長山6弱, 雫石町千苺田4。負傷者9名。土木施設等に大きな被害。
2003	同 15	5・26	地 震	宮城県沖で地震。大船渡市, 衣川村, 平泉町, 室根村, 江刺市で震度6弱。重軽傷者91名。土木施設, 学校施設等に大きな被害。
〃	〃	9・26	津 波	十勝沖で地震(平成15年(2003年)十勝沖地震)。宮古57cm, 大船渡25cm, 釜石42cmの津波を観測。養殖施設等に被害。
2004	同 16	8・10	地 震	岩手県沖で地震。震度宮古, 野田5弱。津波なし。
2005	同 17	8・16	地 震	宮城県沖を震源とする地震。震度藤沢町5強。重傷者3名。土木施設, 学校施設等に大きな被害。
〃	〃	11・15	地震, 津波	三陸沖を震源とする地震。県内最大震度3。大船渡42cmの津波を観測。農地農業用施設に被害。
2006	同 18	11・15	津 波	千島列島東方で地震。宮古32cm, 大船渡41cm, 釜石26cmの津波を観測。被害なし。
2007	同 19	1・13	津 波	千島列島東方で地震。宮古14cm, 大船渡27cm, 釜石13cmの津波を観測。被害なし。
〃	〃	8・17	津 波	ペルー沿岸で地震。宮古15cm, 大船渡9cm, 釜石10cmの津波を観測。被害なし。
2008	同 20	6・14	地 震	「平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震」。震度奥州市6強。死者2名, 重軽傷者37名, 土木施設, 農林業関係に大きな被害。
〃	〃	7・19	地震, 津波	福島県沖で地震。震度盛岡市4。久慈港で20cmの津波を観測。被害なし。
〃	〃	7・24	地 震	岩手県沿岸北部で地震。震度野田村6弱。重軽傷者90名。土木施設, 林業関係に被害。
〃	〃	9・11	地震, 津波	十勝沖で地震。県内最大震度3。久慈港17cm, 宮古4cm, 釜石5cmの津波を観測。被害なし。
2010	同 22	2・28	津 波	チリで地震。三陸沿岸一帯に津波。久慈港120cm, 宮古74cm, 釜石56cm, 大船渡42cm。水産物に大きな被害。
2011	同 23	3・11	地震, 津波	「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生。また、太平洋沿岸を中心に高い津波を観測し、特に東北地方から関東地方の太平洋沿岸では大きな被害が発生。県内最大震度6弱。宮古で8.5m以上、大船渡で8.0m以上の津波を観測。死者5,144名(直接死4,673名、関連死467名)、行方不明者1,112名、負傷者213名、家屋倒壊26,079棟。(令和2年3月10日時点)
〃	〃	6・23	地 震	岩手県沖で地震。盛岡市及び普代村で震度5弱。津波なし。文教施設等に被害。
〃	〃	7・10	地震, 津波	三陸沖で地震。県内最大震度4。大船渡で10cmの津波を観測。鉄道が運休となる被害。
〃	〃	7・23	地 震	宮城県沖で地震。遠野市で震度5強。住家の一部損壊等の被害。人的被害は無し。
2012	同 24	3・27	地 震	岩手県沖で地震。県内最大震度5弱。軽傷者1名。
〃	〃	12・7	地震, 津波	三陸沖で地震。盛岡市及び滝沢村で震度5弱。大船渡21cm, 久慈港23cmの津波を観測。死者1名。
2013	同 25	2・6	津 波	南太平洋(サンタクルーズ諸島)でマグニチュード8.0の地震。宮古10cm, 大船渡10cm, 久慈港35cm, 釜石19cmの津波を観測。被害なし。
2014	同 26	4・3	津 波	チリ北部沿岸で地震。久慈港55cm, 宮古21cm, 釜石19cmの津波を観測。水産物に被害。
〃	〃	7・5	地 震	岩手県沖で地震。宮古市で震度5弱。被害なし。
〃	〃	7・12	津 波	福島県沖で地震。大船渡20cm, 釜石微弱, 久慈港10cmの津波を観測。被害なし。
2015	同 27	2・17	地震, 津波	三陸沖で地震。盛岡市、宮古市及び奥州市で震度4。久慈港27cm, 宮古11cm, 釜石7cmの津波を観測。被害なし。
〃	〃	〃	地 震	岩手県沖で地震。普代村で震度5弱。文教施設に被害。
〃	〃	5・13	地 震	宮城県沖で地震。花巻市で震度5強。農林水産施設等に被害。

資料編 1 総則

西暦	元号	月日	災害現象	事 項
〃	〃	7・10	地 震	岩手県内陸北部で地震。盛岡市で震度5弱。軽傷者2名。
2016	同 28	11・22	地震、津波	福島県沖で地震。盛岡市他で震度3。久慈港79cm，宮古35cm，大船渡33cm，釜石23cmの津波を観測。農林水産施設，水産物に被害。

1-6-3 岩手県断層分布図



資料編 1 総則

1-6-4 岩手県における過去のおもな火山災害・噴火等記録（八幡平は噴火記録なし）

区 分	岩 手 山	秋田駒ヶ岳	栗 駒 山
貞享3年 (1686年)	噴火（溶岩流・泥流等）、 家屋破損		
貞享4年 (1687年)	噴火（噴石・噴煙）、群 発地震		
享保16～17年 (1732年)	噴火（焼走り溶岩流）		
寛保3年 (1744年)			噴火
明治23～24年 (1890～1891年)		噴火（鳴動・噴石）	
大正8年 (1919年)	大地獄で水蒸気爆発（降 灰）		
昭和7年 (1932年)		水蒸気爆発（泥流・降灰・ ガス）	
昭和19年 (1944年)			小水蒸気爆発（泥土噴 出・酸性水）西・南東山 麓で地震群発
昭和45～46年 (1970～1971年)		噴火（頻繁な爆発・溶岩 流出）	
昭和47年 (1972年)	白色噴煙		
昭和61～62年 (1986～1987年)			北東山麓で地震群発
昭和63年 (1988年)		南西山麓で地震群発	
平成7年 (1995年)	低周波地震・微動		
平成10年以降 (1998年～)	地震活動活発化		
平成21年 (2009年)		女岳の地熱域に拡大傾向	
平成31年 (2019年)			

1-6-5 平成7年以降の岩手山の活動状況

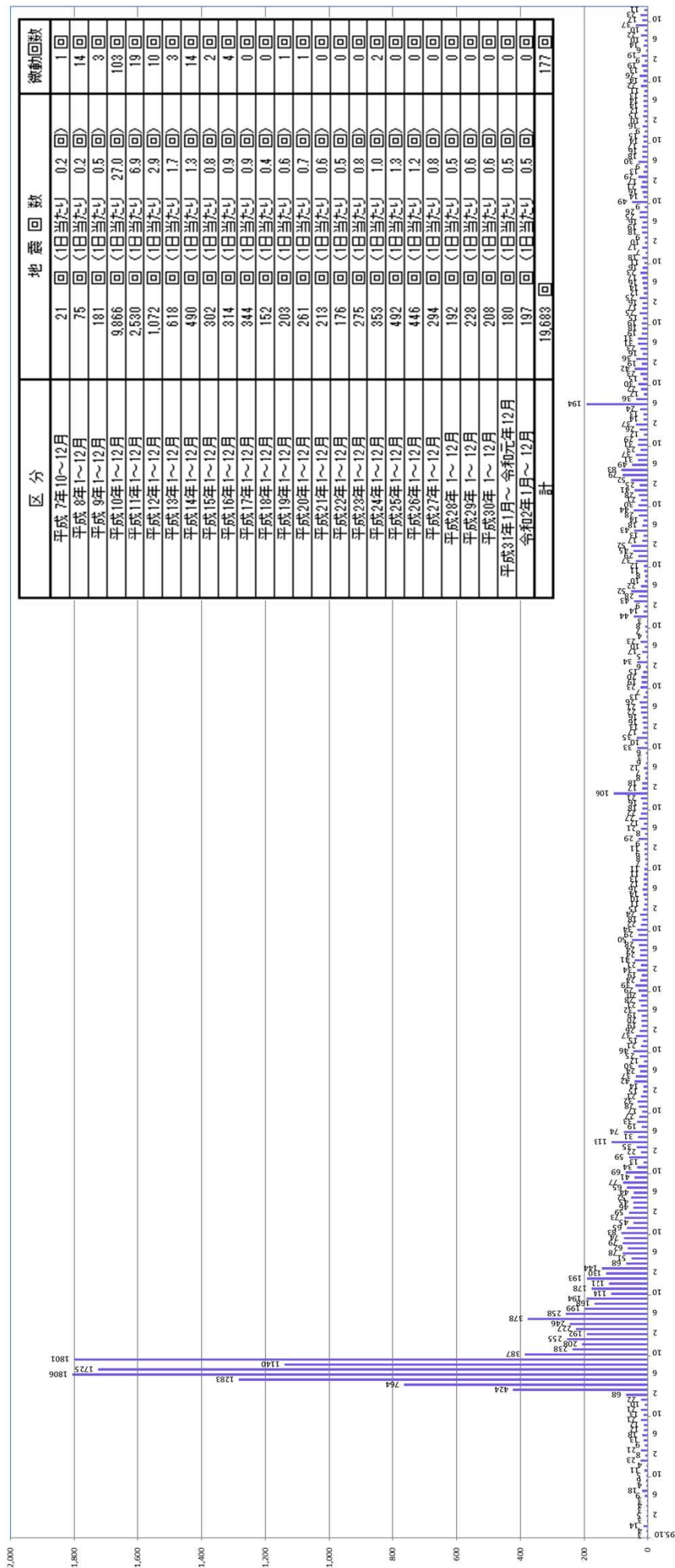
年	事 項
平成7年 ～9年 (1995～ 1997年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成7年9月火山性微動と低周波地震の発生が始まる。 ○ 平成9年12月山体西側を震源とする地震が発生し始める。
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2月以降地震回数が増加。 ○ 4月29日15時前後の短時間に多数の火山性地震を観測。東北大学の傾斜計等のデータにも大きな変化を観測。臨時火山情報第1号。聞き取り調査の結果、休暇村岩手では有感となった模様。深部低周波地震が急増。 ○ 5月深部低周波地震を38回観測。 ○ 6月地震回数が1,800回(1ヶ月)を超える。岩手山西側を震源とする低周波地震の発生を観測。臨時火山情報第2号(今後さらに火山活動が活発化した場合には噴火の可能性もある)。微動が目立って観測されるようになり、7月には振幅の大きな微動が観測され、発生回数も32回を数えた。大地獄谷での噴気温度の上昇と姥倉山付近で地温の高い箇所を確認。 ○ 7月振幅の大きい火山性微動と火山性地震が観測され、臨時火山情報第3号。7月下旬から8月前半にかけて、やや深いところ(4～8km)で発生した低周波地震が1日数回発生。深部低周波地震は35回発生。 ○ 8月三ツ石山付近でM3.2の地震。山頂付近を震源とするM1.2の地震。 ○ 9月岩手山の南西約10kmでM6.2(震度6弱)の逆断層型の地震が発生。篠崎地震断層出現。臨時火山情報第4号。山頂に近い鬼ヶ城付近で浅い地震が発生。 ○ 10月三ツ石山付近でM2.5の地震。 ○ 山頂付近でM2.2の地震発生。
平成11年 (1999年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低周波地震は1月28回、2～7月は12～20回の発生。8月1日には短時間に32回と多発した。 ○ 4月黒倉山・姥倉山鞍部北斜面で新たな噴気箇所を観測。 ○ 5月犬倉山から姥倉山付近を震源とするM4.0(震度4)の地震が発生。 ○ 6月黒倉山の地中温度の上昇を確認。 ○ 9月葛根田川沿いの天然記念物「玄武洞」が大崩落。 ○ 11月振幅の大きな微動(振り切れ微動継続時間約4分)を観測。臨時火山情報第4号。
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1月黒倉山山頂付近の噴気が高さ100メートルを超える日が度々観測されるようになる。 ○ 3月犬倉山から姥倉山付近を震源とするM4.3(震度4)の地震。 ○ 4月大地獄谷西小沢で10数ヶ所の噴気孔群を観測。 ○ 6月黒倉山から姥倉山付近を震源とする単色地震が発生。 ○ 6～9月黒倉山山頂の噴気の高さは200～250メートルに達する。
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒倉山山頂の噴気活動は依然活発。 ○ 5月モ深部低周波地震を15回観測。

平成 14 年 (2002 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4 月下旬に東岩手山のやや深いところ（深さ 10km 前後）を震源とする低周波地震の活動がやや活発化。 ○ 浅部の地震活動は低調。
平成 15 年 (2003 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東岩手山のやや深いところ（深さ 10km）を震源とする低周波地震の活動が一時活発化。 ○ 浅部の地震活動は低調。 ○ 黒倉山山頂の噴気の状態に大きな変化は見られなかった。
平成 16 年 (2004 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火山活動は穏やかに経過。 ○ 黒倉山山頂の噴気活動は、次第に低下傾向が見られ始める。 ○ 6 月 1999 年頃から笹枯れが始まった黒倉山付近で植生の回復が確認される。 ○ 12 月黒倉山山頂の西に伸びる地熱地帯の裸地で地温の低下傾向が確認される。
平成 17 年 (2005 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震、噴気活動は、低下傾向で推移。火山性微動は観測されなかった。 ○ 黒倉山山頂で観測されていた局所的な地盤変動は、ほぼ停止したことが確認される。 ○ 表面現象では、大地獄谷の噴気温度は低い状態で推移し、黒倉山から姥倉山付近では引き続き植生の回復が確認される。
平成 18 年 (2006 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震回数は少なく推移。 ○ 地殻変動に顕著な変化は認められず。 ○ 黒倉山～姥倉山の噴気活動は低下の傾向が続き、植生の回復が認められる。大地獄谷の噴気温度は低い状態で推移。
平成 19 年 (2007 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火山活動は静穏に経過した。 ○ 8 月以降東岩手山のやや深いところ（深さ 10km）を震源とする低周波地震がやや増加したが、浅部の地震活動は少ない状態で推移。 ○ 7 月に継続時間は短いですが、振幅のやや大きな微動を 1 回観測。 ○ 噴気活動は低調に推移した。 ○ 噴火警戒レベル 1（平常）〔12 月 1 日～ 〕（12 月 1 日より噴火警戒レベル運用開始）
平成 20 年 (2008 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1（平常）」で経過した。 ○ 1 月と 12 月に東岩手山のやや深いところ（深さ 10km）を震源とする低周波地震がやや増加し、6 月には継続時間が短く振幅の小さい微動を 1 回観測したが、その後の地震活動は低調な状態で推移した。 ○ 噴気活動は低調に推移した。
平成 21 年 (2009 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1（平常）」で経過した。 ○ 地震活動は低調に推移した。 ○ 噴気活動は低調に推移した。
平成 22 年 (2010 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1（平常）」で経過した。 ○ 地震活動は低調に推移した。 ○ 噴気活動は低調に推移した。

平成 23 年 (2011 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (平常)」で経過した。 ○ 3 月 11 日に発生した「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」以降、主に松川付近(山頂の西北西約 10km)を震源とする地震回数が平常時より若干多い状況となったが、その後、地震活動は収まっている。 ○ 噴気活動は低調に推移した。
平成 24 年 (2012 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (平常)」で経過した。 ○ 地震活動は低周波地震が一時的に増加し、火山性微動も 2 回発生したが、噴気活動は低調で、地殻変動にも特段の変化はなかった。
平成 25 年 (2013 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (平常)」で経過した。 ○ 地震活動は 3 月から 5 月にかけてやや多い状況になり、5 月には岩手山西側を震源とする最大震度 2 の地震が発生した。その他の期間は地震活動、噴気活動とも概ね低調に経過し、地殻変動にも特段の変化はみられなかった。
平成 26 年 (2014 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (平常)」で経過した。 ○ 6 月 1 日に岩手山西側を震源とする M3.0 の地震が発生した。また、10 月 20 日には山頂直下のやや深い所が震源と推定される火山性地震が一時的に増加したが、その他の期間、地震活動は低調に経過した。噴気活動は低調に経過し、地殻変動にも特段の変化はみられなかった。
平成 27 年 (2015 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (活火山であることに留意)」で経過した。 ○ 7 月 20 日には山頂直下のやや深い所が震源と推定される低周波地震が一時的に増加したが、その他の期間、地震活動は低調に経過した。噴気活動は低調に経過し、地殻変動にも特段の変化はみられなかった。
平成 28 年 (2016 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (活火山であることに留意)」で経過した。 ○ 地震活動及び噴気活動は低調に推移し、地殻変動にも特段の変化は見られなかった。
平成 29 年 (2017 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (活火山であることに留意)」で経過した。 ○ 10 月 25 日には山頂直下のやや深い所が震源と推定される低周波地震が一時的に増加したが、その他の期間、地震活動は低調に経過した。噴気活動は低調に経過し、地殻変動にも特段の変化はみられなかった。
平成 30 年 (2018 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (活火山であることに留意)」で経過した。 ○ 地震活動及び噴気活動は低調に推移し、地殻変動にも特段の変化は見られなかった。
平成 31 年・令和元 年 (2019 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 噴火警戒レベルは、「レベル 1 (活火山であることに留意)」で経過した。 ○ 地震活動及び噴気活動は低調に推移し、地殻変動にも特段の変化は見られなかった。

※ 噴火警戒レベル 1 におけるキーワード「平常」の表現を、平成 27 年 5 月 18 日より「活火山であることに留意」に改める。

岩手山の火山性地震月別回数



※ 基準観測点
 平成17年12月まで東北大学松川観測点
 平成18年1月から気象台焼切沢観測点
 平成23年10月から気象台馬返し観測点及び防災科学技術研究所松川観測点
 ※ 平成14年までは滝ノ上付近の地震など山体構造性地震も含む

1-6-7 岩手山の噴火史

岩手山は、25 個以上の小火山から構成され、東西約 13km の長さに配列し、正確には「岩手火山群」と呼ばれる。富士山と同じ特徴を持つ化学組成の溶岩を産する国内でも最大級の火山である。代表的な山として小畚山、三ツ石山、大松倉山、犬倉山、姥倉山、黒倉山、鬼ヶ城、薬師岳 (2,038m)、鞍掛山などがある。岩手火山群を構成する一個一個の火山は成層火山である。これらのうち、形成時期が新しく、火山群の東半分を占める火山体（姥倉山から東側の山体）を狭義の岩手火山と呼び、さらにこれを東西に区分して西岩手火山・東岩手火山と呼ぶ。両者の境界はほぼ東経 141 度の線である。

岩手火山群は約 70 万年の歴史があり、そのため複雑な火山地形を示している。活動の初期には、東西約 13km の範囲の全体で火山活動があり、その後活動の中心は東側に移行している。過去に 7 回の山体崩壊を起こしているが、この回数は成層火山としては国内最多である。東岩手山は約 6,000 年前以降、主にマグマ噴火を繰り返し、一回の噴火のマグマ噴出量は、0.1 立方 km 程度以下である。これに対して、西岩手山は約 7,400 年前以降、水蒸気噴火のみを繰り返し、マグマは伴わない。火口周辺の岩石を起源とする火山灰の噴出量は 0.01 立方 km 程度以下である。

約 6,000 年前以降の主な活動は、次のとおりである。

(1) 約 6,000 年前 山体崩壊

東岩手山の山頂部で大規模な山体崩壊を起こし北東山麓を埋め尽くした。(平笠岩層なだれ堆積物)

土砂の一部は北上川に沿って流下し、岩手大学工学部付近に達して台地をつくった。

この後、江戸時代まで多数の噴火があり、溶岩が流出して薬師岳が形成され、さらに山頂火口の中に妙高岳が形成された。

(2) 約 3,200 年前 水蒸気爆発

大地獄谷中央火口丘で水蒸気爆発が起こり、網張温泉付近まで降灰(火口から約 3.5km で 10cm の厚さで堆積)。火山灰は熱水変質した岩石片(噴石)と岩粉・粘土からなり、火山灰量は 0.01 立方 km 以下と概算される。

西岩手山では 7,400 年前以降現在まで少なくとも 8 回の水蒸気噴火があり、この噴火が最大規模のものである。

(3) 1686 年(貞享 3 年) 山頂噴火

山頂の御室火口でマグマ水蒸気爆発が起こって滝沢村南東麓方向に火砕サージが噴出し、噴火が本格化して、降灰・火山泥流が繰り返し発生した。玉山村・滝沢村・盛岡市・花巻市方面に降灰し、玉山村生出地区は農地が荒廃し、放棄された。また、火山泥流が繰り返し発生し、玉山村・滝沢村・西根町方面に流下して滝沢村一本木地区が被災した。

(4) 1732 年(享保 16~17 年) 焼走り溶岩流

地震が頻発し、山鳴りの後、薬師岳北東山腹の 5 個の火口から溶岩が流出した。地震により、西根町平笠地区の住民が一時避難した。噴火活動は一年で終了した。

(5) 1919 年(大正 8 年) 水蒸気噴火

大地獄谷において、直径約 9m の火口から、強い音響とともに水蒸気とガスを噴出した。後に崩壊により火口の直径が約 50m に拡大し、火口湖中の熱水から水蒸気を噴出。火口湖周辺には巨大な石が飛散し、厚さ 3~15cm の変質粘土からなる火山灰が堆積した。火山灰は網張温泉方向に降灰した。

(6) 昭和の火山活動(1934~35 年, 1960 年, 1972 年) 水蒸気の噴出

昭和に入り，薬師岳山頂の薬師火口内で地熱活動が活発になり水蒸気の噴気が始まった。活動が活発化した時期は3回あり，これらの時期には盛岡市内からも水蒸気の噴出を確認できた。このうち最も活発だったのは1934～35年活動で，小爆音を伴った。

これらの噴気箇所は，主に薬師火口南東火口壁とその直下の火口内，及び妙高岳南東山腹で，噴出物は，水蒸気と火山ガスのみで，マグマの噴出はない。火山ガスは，二酸化炭素・硫化水素・亜硫酸・塩酸などで，塩酸を多く含むのが特徴である（1960年9月測定）。

また一方で，この時期においては大地獄谷・黒倉山などの西岩手山の噴気活動が続いている。
出典：「岩手山の地質」（著者 土井宣夫 発行 平成12年3月滝沢村教育委員会）ほか

岩手山火山防災マップ

〈西側で水蒸気爆発、東側でマグマ噴火が起きた場合〉

このマップは岩手山の過去の噴火に関する調査をもとに作成したものです。今後岩手山で想定される噴火について多くの方に知っていただき、一般家庭や観光施設をはじめ、関係機関での防災に役立てていただくことを目的としています。西側では約3,200年前の水蒸気爆発、東側では1686年のマグマ噴火と同じ規模の噴火が発生した場合を想定して、災害予想区域を表示しています。

ただし、実際の噴火ではこの図と異なる場合もありますので、噴火の状況に即した対応が必要となります。

番号	避難場所	対象地区名	連絡先
1-1	雄花小学校体育館	月が丘の一部	019-641-0187
1-2	雄花小学校体育館	滝内地区/法蓮寺	019-641-0187
1-3	雄花小学校体育館	花月町自治会の一部	019-641-0187
1-4	雄花小学校体育館	花月山の一部	019-647-9120
1-5	雄花小学校体育館	雄花町/中道町/大蔵町	019-647-7531
1-6	雄花小学校体育館	雄花町の一部	019-647-4749
1-7	雄花小学校体育館	雄花町/雄花山/上雄花の一部	019-687-7776
1-8	雄花小学校体育館	雄花町の一部	019-682-9999
1-9	雄花小学校体育館	小森/真木/宇田島の一部	019-683-2116
1-10	雄花小学校体育館	雄花の一部	019-683-2116
1-11	雄花小学校体育館	雄花の一部	019-683-2554
1-12	雄花小学校体育館	雄花の一部	019-683-2554
1-13	雄花小学校体育館	雄花の一部	019-683-2743
1-14	雄花小学校体育館	雄花の一部	019-683-2116

番号	避難場所	対象地区名	連絡先
2-1	雄花小学校	雄花の一部	019-693-3321
2-2	雄花小学校	雄花の一部	019-693-3321
2-3	雄花小学校	雄花の一部	019-692-2224
2-4	雄花小学校	雄花の一部	019-692-5030
2-5	雄花小学校	雄花の一部	019-692-2203
2-6	雄花小学校	雄花の一部	019-692-4181
2-7	雄花小学校	雄花の一部	019-692-0571

番号	避難場所	対象地区名	連絡先
3-1	雄花小学校	雄花の一部	019-688-4072
3-2	雄花小学校	雄花の一部	019-688-4007
3-3	雄花小学校	雄花の一部	019-688-6602
3-4	雄花小学校	雄花の一部	019-688-4002
3-5	雄花小学校	雄花の一部	019-687-3134
3-6	雄花小学校	雄花の一部	019-684-1771
3-7	雄花小学校	雄花の一部	019-687-3311
3-8	雄花小学校	雄花の一部	019-687-2004
3-9	雄花小学校	雄花の一部	019-686-7811
3-10	雄花小学校	雄花の一部	019-687-0021
3-11	雄花小学校	雄花の一部	019-687-2004

番号	避難場所	対象地区名	連絡先
4-1	雄花小学校	雄花の一部	019-76-2536
4-2	雄花小学校	雄花の一部	019-76-4069
4-3	雄花小学校	雄花の一部	019-76-2239
4-4	雄花小学校	雄花の一部	019-74-2111
4-5	雄花小学校	雄花の一部	019-74-2111
4-6	雄花小学校	雄花の一部	019-76-2111
4-7	雄花小学校	雄花の一部	019-76-2531
4-8	雄花小学校	雄花の一部	019-74-2040
4-9	雄花小学校	雄花の一部	019-74-2610
4-10	雄花小学校	雄花の一部	019-74-2216
4-11	雄花小学校	雄花の一部	019-74-2514
4-12	雄花小学校	雄花の一部	019-77-2533
4-13	雄花小学校	雄花の一部	019-76-3498
4-14	雄花小学校	雄花の一部	019-76-2003

【避難の際の留意事項】

噴火が発生した場合、その影響により男川の冠水が想定されることから、避難やアンダーパス等の使用には十分注意するとともに、危険な場合は反対方向へ避難すること。

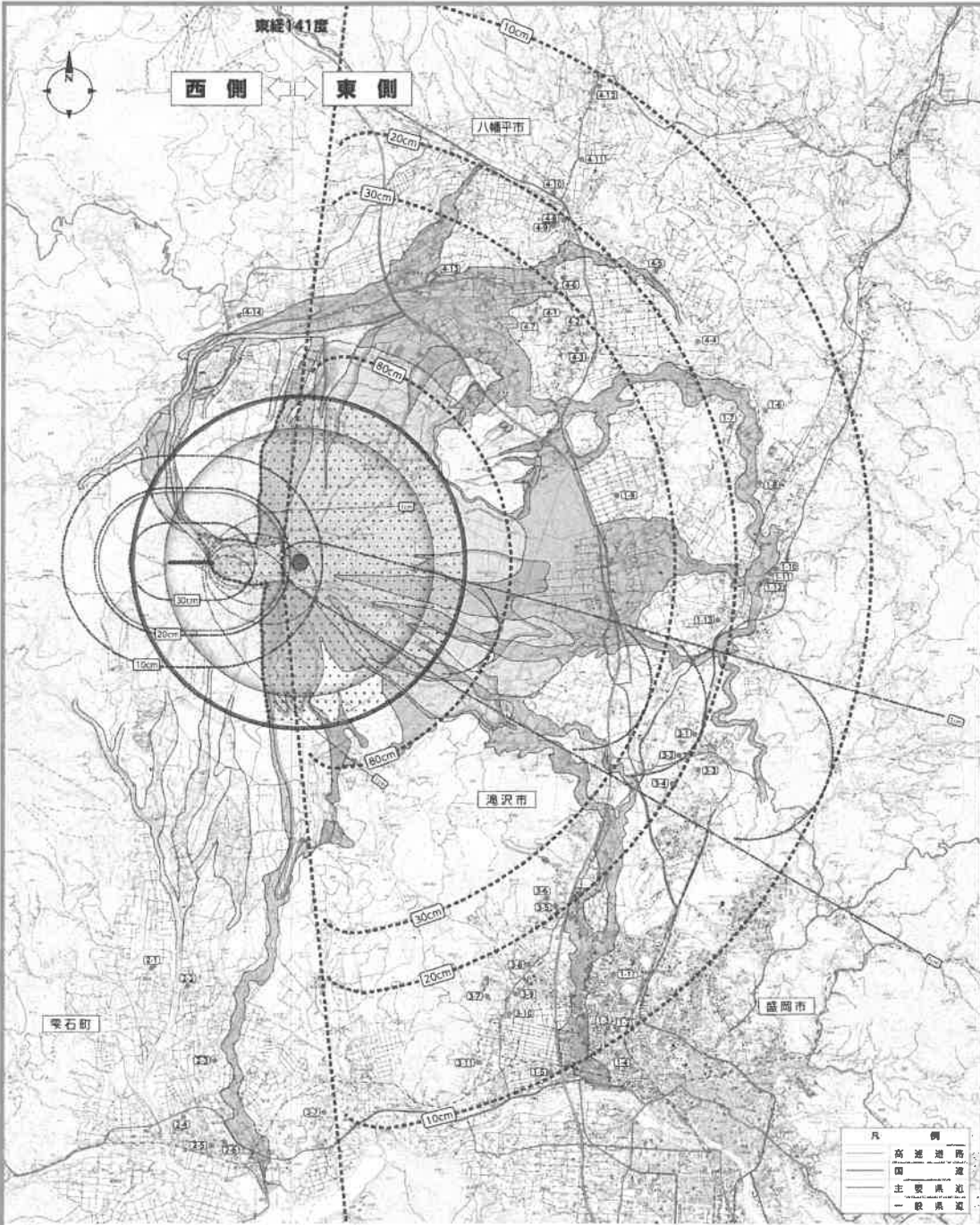
【噴火に備えて】

避難の際には口から呼吸が大切で、非常用持ち出し品（リュック）に添えておく、避難場所と緊急連絡先をチェックしておきましょう。

- | | | | |
|--|----------------------------------|--|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> リュック | <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> 緊急連絡先 |
| <input type="checkbox"/> 多機能防災ラジオ | <input type="checkbox"/> 食料(缶・水) | <input type="checkbox"/> 貴重品(現金・通帳・印鑑など) | <input type="checkbox"/> その他(救急箱) |
| <input type="checkbox"/> 携帯電話・充電器 | <input type="checkbox"/> 手回し発電機 | <input type="checkbox"/> コップ | <input type="checkbox"/> パスカル |
| <input type="checkbox"/> ヘルメット | <input type="checkbox"/> マスク | <input type="checkbox"/> プラスチック製のコップ | <input type="checkbox"/> その他(足元の靴) |
| <input type="checkbox"/> 10センチ以上厚みのある靴 | <input type="checkbox"/> コーブル | <input type="checkbox"/> 大判のビニール袋 | <input type="checkbox"/> その他(手袋) |
| <input type="checkbox"/> マッチライター | <input type="checkbox"/> 防寒着 | <input type="checkbox"/> その他(タオル) | <input type="checkbox"/> その他(紙幣) |

わが家の避難場所は

過去にはこのような岩崩り(山くずれ)も起きています。



この地図は市町村に当たっては、国土院の地図の複製を有して、尺幅原尺の2万5千分の1の縮尺を使用して、(調査年度 平成30年度、第72次GISMAP41157号)



避難場所	想定火口	大きな噴石	降灰	火砕流	火砕サージ(爆風)	溶岩流	土石流	火山泥流
西側	東側	西側	東側	東側	東側	東側	西側	東側
予想される火口位置	大きな噴石が飛んでくる危険性のある範囲	火山灰が降り積もる厚さ(cm)	火砕流が到達する危険性のある範囲	火砕サージが到達する危険性のある範囲	溶岩流が流れる下流の危険性のある範囲	土石流が流れる下流の危険性のある範囲	噴霧帯に火砕流が発生した場合、雪が降りて火山泥流が流れる危険性のある範囲	

防災マップの問い合わせ先
 国土院東北地方整備局 岩手山火山防災対策検討委員会
 雄花町 019-651-3111 (総合受付、防災担当)
 八幡平市 019-651-4111 (危機管理担当)
 八幡平市 0195-74-2111 (防災安全課)
 滝沢市 019-688-2111 (防災安全課)
 盛岡市 019-652-2111 (防災安全課)

平成10年10月 監修：岩手山火山災害対策検討委員会
 発行：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、岩手県、盛岡市、磐石町、西根町、滝沢村、松尾村、玉山村
 平成31年3月 改訂：岩手山火山防災協議会 (八幡平市) (岩手県)

【裏面も要参照】

避難場所位置図

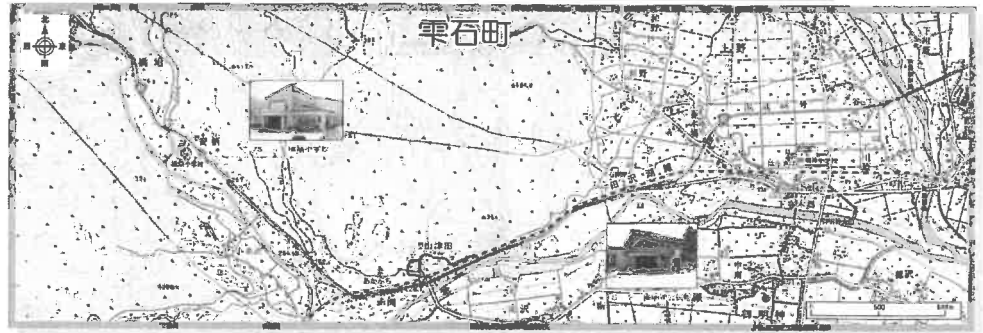
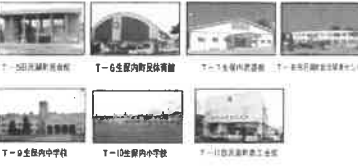
避難先・経路等については、防災行政無線等による誘導や指示に従ってください。



番号	施設名	所在地	電話番号
T-1	相次コミュニティホーム	田沢町高野15	0187-42-2810
T-2	田沢町民体育館	田沢町高野59	0187-42-2815
T-3	田沢中学校	田沢町高野164-6	0187-42-2310
T-4	田沢小学校	田沢町大山7	0187-42-2110

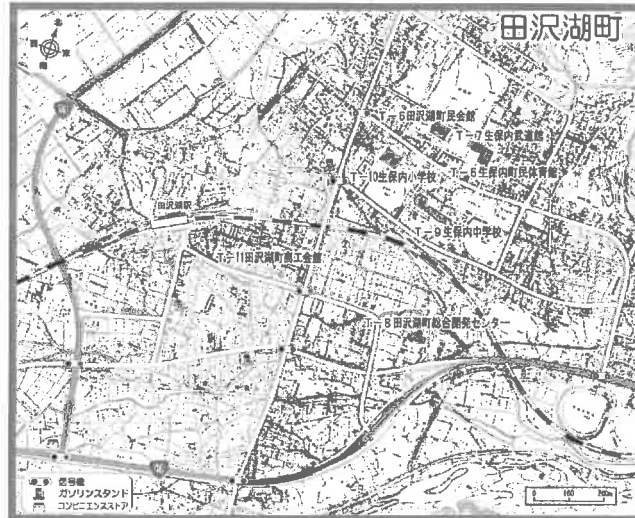
田沢湖町役場 TEL: 0187-43-1111

番号	施設名	所在地	電話番号
T-5	田沢湖町民会館	生保内字高野野106-1	0187-43-3143
T-6	生保内町民体育館	生保内字高野野106-1	0187-43-1975
T-7	生保内公民館	生保内字高野野106-1	0187-43-5689
T-8	田沢湖町総合センター	生保内字高野/法27	0187-43-1622
T-9	生保内中学校	生保内字高野野109-1	0187-43-1181
T-10	生保内小学校	生保内字高野野111	0187-43-0243
T-11	田沢湖町商工会館	生保内字街通上85	0187-43-0372



磐石町役場 TEL: 019-692-2111

番号	施設名	所在地	電話番号
S-1	磐石小学校	磐石町野宮2-2	019-692-2489
S-2	磐石町公民館	上野上野266	019-692-3228



もし噴火が始ったら

- 気象台が発する火山情報に注意しましょう。
- 市町村長から避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。
- テレビやラジオのニュース、新聞、市町村の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。
- デマやうわさに惑わされないようにしましょう。

避難する場合は...

- ①車の絵のような格好が避難に適しています。
- ②避難の前に戸締まり、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- ③あわてず落ち着いて速やかに行動しましょう。
- ④お年寄り、赤ちゃん、身体の不自由な人、外国人など言葉の分からない人の避難を助けましょう。
- ⑤市街地では車は使わず徒歩で移動しましょう。

秋田駒ヶ岳火山防災マップ

この火山防災マップは、秋田駒ヶ岳の活火山活動や、もし噴火した際の避難先や避難経路の情報をひと目でわかるようにまとめたものです。また、秋田駒ヶ岳火山の概要や、防災に関する基本的な知識も掲載しています。

秋田駒ヶ岳火山の概要

秋田駒ヶ岳は、秋田県秋田市にある活火山です。標高2,357メートルで、秋田県内最大の活火山です。1983年に噴火し、以降定期的に活動しています。

避難先・経路等

秋田駒ヶ岳火山の周辺には、多くの避難場所があります。このマップでは、避難場所の位置、避難経路、避難方法などを詳しく説明しています。

噴火警報の説明

噴火警報は、噴火の危険性を示すための重要な情報です。このマップでは、噴火警報の種類や対応方法を詳しく説明しています。

秋田駒ヶ岳火山の防災マップ

このマップは、秋田駒ヶ岳火山の防災に関する情報をひと目でわかるようにまとめたものです。また、秋田駒ヶ岳火山の概要や、防災に関する基本的な知識も掲載しています。

大昔の火山活動

秋田駒ヶ岳は、大昔から火山活動を繰り返してきました。このマップでは、大昔の火山活動の様子や、その影響について詳しく説明しています。

過去1万年間の噴出履歴

噴火回数	噴火時期	噴火規模	噴火の種類
1	約1万年	大規模	大規模噴火
2	約8,000年	中規模	中規模噴火
3	約5,000年	小規模	小規模噴火
4	約3,000年	中規模	中規模噴火
5	約1,000年	小規模	小規模噴火
6	約500年	中規模	中規模噴火
7	約200年	小規模	小規模噴火
8	約100年	中規模	中規模噴火
9	約50年	小規模	小規模噴火
10	約20年	中規模	中規模噴火
11	約10年	小規模	小規模噴火
12	約5年	中規模	中規模噴火
13	約2年	小規模	小規模噴火
14	約1年	中規模	中規模噴火

火山用語三辞典

高熱・高圧の水蒸気や溶岩が噴出する。新しいマグマの噴出はなく、古い溶岩が噴出する。噴火の規模は、噴火の種類や噴火の種類によって異なる。

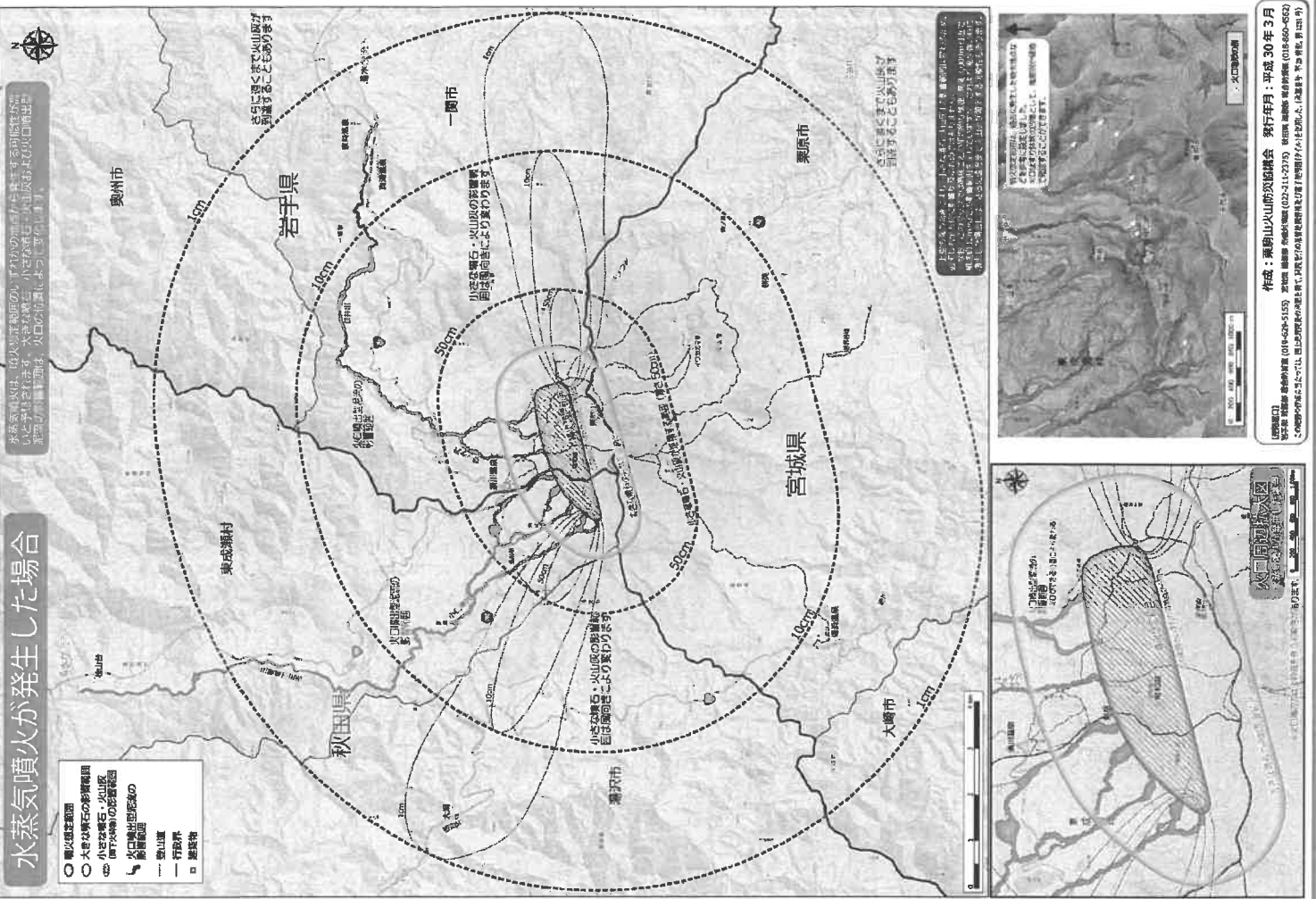
高熱・高圧の水蒸気や溶岩が噴出する。 高熱・高圧の水蒸気や溶岩が噴出する。新しいマグマの噴出はなく、古い溶岩が噴出する。噴火の規模は、噴火の種類や噴火の種類によって異なる。

高熱・高圧の水蒸気や溶岩が噴出する。 高熱・高圧の水蒸気や溶岩が噴出する。新しいマグマの噴出はなく、古い溶岩が噴出する。噴火の規模は、噴火の種類や噴火の種類によって異なる。

高熱・高圧の水蒸気や溶岩が噴出する。 高熱・高圧の水蒸気や溶岩が噴出する。新しいマグマの噴出はなく、古い溶岩が噴出する。噴火の規模は、噴火の種類や噴火の種類によって異なる。



水蒸気噴火が発生した場合



作成：栗駒山火山防災協議会 発行年月：平成 30年 3月
 栗駒山火山防災協議会（019-624-5155） 栗駒山 避難所 避難所地図（019-650-652）
 栗駒山 避難所 避難所地図（019-650-652）
 栗駒山 避難所 避難所地図（019-650-652）

噴火の種類

どのよう噴火が起きるか？

水蒸気噴火

マグマによって加熱された地下水が地殻内へ噴出して発生する噴火

マグマ噴火

地下から上昇してきたマグマが地殻内へ噴出して発生する噴火

小さな噴石・火山灰（地下火砕物）

上空の風向きにより影響範囲が大きく変わります。風下側では火山灰から遠くまで飛散することもあります。噴石は落下し、火山灰は風向きによって飛散範囲が広がります。噴石は落下し、火山灰は風向きによって飛散範囲が広がります。噴石は落下し、火山灰は風向きによって飛散範囲が広がります。

火口噴出型泥流

噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。火口から噴出した泥流が谷筋を流下し、谷筋を流下します。火口から噴出した泥流が谷筋を流下し、谷筋を流下します。

溶岩流・溶岩ドーム

比較的天くくりと流下する現象です。火口から噴出した溶岩の塊が、溶岩として山頂付近まで到達します。比較的天くくりと流下する現象です。火口から噴出した溶岩の塊が、溶岩として山頂付近まで到達します。

降水後の降雨による土石流

降雨によって発生します。噴火後は斜面が不安定になり、降雨によって発生します。噴火後は斜面が不安定になり、降雨によって発生します。

融雪型火山泥流

噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。

大きな噴石

噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。

火砕流・火砕サージ

噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。

融雪型火山泥流

噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。噴火と同時に発生し、谷筋を流下します。

噴火したときに発生する現象

噴火したときに発生する現象。噴火したときに発生する現象。噴火したときに発生する現象。

普段から注意が必要

普段から注意が必要。普段から注意が必要。普段から注意が必要。

火山ガス

火山ガス。火山ガス。火山ガス。

噴火想定範囲

噴火想定範囲。噴火想定範囲。噴火想定範囲。

酸性性水の湧下

酸性性水の湧下。酸性性水の湧下。酸性性水の湧下。

栗駒山火山ハザードマップ

栗駒山は、過去約1万年前に何回も噴火を繰り返してきた活火山です。最新の噴火は1944年に昭和19年に発生しています。このハザードマップは、栗駒山で過去に発生した噴火や他火山での噴火事例を参考に、一部の条件を想定し、「水蒸気噴火」と「マグマ噴火」にわけて噴火による影響範囲を示しています。噴火によって発生する現象はさまざまであり、実際の噴火ではこの図と異なる場合もあるため注意が必要です。

栗駒山は、過去約1万年前に何回も噴火を繰り返してきた活火山です。最新の噴火は1944年に昭和19年に発生しています。このハザードマップは、栗駒山で過去に発生した噴火や他火山での噴火事例を参考に、一部の条件を想定し、「水蒸気噴火」と「マグマ噴火」にわけて噴火による影響範囲を示しています。噴火によって発生する現象はさまざまであり、実際の噴火ではこの図と異なる場合もあるため注意が必要です。

栗駒山は、過去約1万年前に何回も噴火を繰り返してきた活火山です。最新の噴火は1944年に昭和19年に発生しています。このハザードマップは、栗駒山で過去に発生した噴火や他火山での噴火事例を参考に、一部の条件を想定し、「水蒸気噴火」と「マグマ噴火」にわけて噴火による影響範囲を示しています。噴火によって発生する現象はさまざまであり、実際の噴火ではこの図と異なる場合もあるため注意が必要です。

